

第 4 章

土木部内各課室、各地方公所 半年の記録

1 土木総務課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	2日	<u>新規採用・自治法派遣職員辞令伝達式 実施</u> 土木部には、新任職員34名が配属された。また、復興・復旧事業の即戦力として期待される28都道県104名の自治法派遣職員が土木部に配属された。
	10～12日	<u>第1回「社会資本再生復興会議」開催</u> 平成24年度土木部各課室の、目標、運営方針、重点懸案事項を土木部長、次長へ報告し、今後の取り組み等について意見交換を行った。
	13日	<u>第1回「土木部課（室）長・公所長会議」及び第1回「災害に強いまちづくり宮城モデル構築」推進委員会 開催</u> 土木部各課室、地方公所の長が一堂に会し、各々目標と運営方針を共有し、復旧・復興等の課題を整理した。また、震災教訓を活かした災害に強いまちづくりを実現するために、部内各課室が横断的な連携を図り、被災市町や部内課室等の取組み状況及び懸案事項等について、相互に問題意識を共有化し、速やかに事業を進めるため、当委員会を設置した。
5月	1日	<u>任期付職員辞令伝達式 実施</u> 県は、震災以降の職員不足を補うため任期付き職員を募集し、土木部には20名の技術職員が配属された。
	7日	<u>第一回 県業務・採用試験説明会実施要領 対応</u> 大学卒業程度試験の受験予定者及び大学、高等学校等の就職・進路指導担当者に対して、職員採用試験及び土木部の業務内容について説明し、土木部は震災以降、業務量増加に伴い職員不足を招いている旨を伝えた。
	10日	<u>三県土木部長会議 出席</u> 岩手県・宮城県・福島県土木部長等連絡調整会議に出席し、三県が抱える課題等について議論した。
	30日	<u>宮城県 土木部復興だより創刊号 発行</u> 宮城県土木部の復旧・復興状況を、県民をはじめとする全国の方々へ発信するため、宮城県土木部復興だよりの定期発行が決定した。
6月	15日	<u>平成24年度 第2回「災害に強いまちづくり宮城モデル構築」推進委員会 開催</u> 復興まちづくり関連事業の進捗状況、東日本大震災復興交付金及び各協議事項について説明後、



▲自治法派遣職員辞令伝達式



▲宮城県土木部復興だより創刊号

		意見交換を行った。	
7月	20日	被災三県土木部長による政府要望 実施 国土交通省各局長に対し、平成25年度政府予算編成等に向けて、東日本大震災に関する要望活動を三県土木部長連名で要望活動を行った。	 ▲地方ブロック土木部長等会議
	24日	地方ブロック土木部長会議 出席 東北6県と北海道、政令指定都市の土木部長、国交省（主催）、東北地方整備局の関係者が会し、それぞれ抱える課題や、震災の教訓を生かした取組み等について議論した。	
	27日	第2回「土木部課（室）長・公所長会議」及び第3回「災害に強いまちづくり宮城モデル構築」推進委員会 開催 土木部各課室、地方公所の長が一堂に会し、復旧・復興等の課題を整理した。また、復興まちづくり事業に関する調整事項、協議設計の実施保留解除について説明後、意見交換を行った。	
8月	8日	政府要望 実施 民主党本部、復興庁、国土交通省に対し、平成25年度以降の政府予算編成などにむけて東日本大震災からの復興と東北地方全体の発展に向けた公共事業費の確保を求める要望活動を東北六県、仙台市及び東経連連名で行った。	
	13日	第2回 県業務・採用試験説明会実施要領 対応 短期大学卒業程度、高等学校卒業程度の受験予定者に対して、職員採用試験及び土木部の業務内容について説明し、土木部は震災以降、業務量増加に伴い職員不足を招いている旨を伝えた。	
	28日 ～9月 14日	自治法派遣職員派遣元都道府県に対する継続要請 実施 平成25年度以降の自治法派遣職員確保に向けて、土木部及び農林水産部の幹部職員が各都道府県に直接訪問し、派遣への御礼と継続要請を行った。さらに、東日本大震災から復旧・復興の取り組み状況や今年度自治法は県職員による事業成果の報告を行った。	 ▲高知県庁にて
	27～ 29日	第2回「社会資本再生復興会議」 開催 部内各課室の目標及び運営方針、部の重点事項・懸案事項、各課室の重点事項・懸案事項の進捗状況及び平成25年度予算編成に向けた対応について部長、次長あてに報告し、意見交換したもの。	
9月	10日	震災復興に伴う盛土材連絡調整会議 開催 東日本大震災に伴う復旧・復興事業において、大量の盛土材が必要であることから、連絡調整会議を設置し盛土材を安定供給するために関係者間での調整を開始した。	
	13日	三県土木部長会議 出席 岩手県・宮城県・福島県土木部長等連絡調整会議に出席し、三県が抱える課題について議論した。	

2 事業管理課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	1日	<u>発注者支援業務（工事監督業務）の積算基準及び共通仕様書 制定</u> 復旧・復興工事等の迅速かつ円滑な執行を図るため、発注者支援業務（工事監督支援業務）の積算基準及び共通仕様を制定し、部内各機関に通知した。
	6日	<u>「東日本大震災に伴う県発注工事等の特例措置」部内説明会 開催</u> 平成24年4月1日に施行した「東日本大震災に伴う県発注工事等の特例措置」の周知徹底を図るため、部内各機関の担当者を対象として契約課と合同で説明会を開催した。
	9日	<u>第1回復旧・復興事業の施工確保に関する連絡協議会（幹事会） 出席</u> 新たな入札・契約方式の導入に関する検討について、復興庁、国土交通省、農林水産省、被災3県、仙台市等で意見交換し、情報共有を図った。
	16日	<u>出前講座「東日本大震災に伴う県発注工事等の特例措置」 開催</u> 宮城県建設業協会から依頼があり、平成24年4月1日に施行した「東日本大震災に伴う県発注工事等の特例措置」の説明会を出前講座として東松島市で開催した。
	20日	<u>第1回建設資材対策東北地方連絡会 出席</u> 復旧・復興工事の建設資材不足等の対策について、東北地方整備局、被災3県、仙台市、関係団体等で意見交換し、情報共有を図った。
	20日	<u>鋼矢板（仮設）資材対策連絡会議 出席</u> 復旧・復興工事で顕著化してきた鋼矢板（仮設）不足の対策について、東北地方整備局、被災3県、仙台市、関係団体等で意見交換し、情報共有を図った。
	25日	<u>新任技術職員研修（前期） 開催（～27日まで）</u> 東日本大震災の復旧・復興の即戦力となるべく新任技術職員研修（前期）を開催し、宮城県震災復興計画及び宮城県社会資本再生・復興計画等の講義を中心とした土木部研修を開催した。
	25日	<u>「東日本大震災に伴う県発注工事等の特例措置」全体説明会 開催</u> 平成24年4月1日に施行した「東日本大震災に伴う県発注工事等の特例措置」の周知徹底を図るため、全部局の担当職員を対象として契約課と合同で説明会を開催した。



▲新任技術職員研修の現場研修状況

5月	8日	<u>「東日本大震災に伴う県発注工事等の特例措置」説明会（北部・登米） 開催</u> 平成24年4月1日に施行した「東日本大震災に伴う県発注工事等の特例措置」の周知を図るため、北部及び登米合同庁舎で建設業者を対象として契約課と合同で説明会を開催した。
	11日	<u>「東日本大震災に伴う県発注工事等の特例措置」説明会（県庁） 開催</u> 平成24年4月1日に施行した「東日本大震災に伴う県発注工事等の特例措置」の周知を図るため、県庁で建設業者を対象として契約課と合同で説明会を開催した。
	17日	<u>任期付職員研修 開催（～18日まで）</u> 東日本大震災の復旧・復興の即戦力となる任期付職員に対して研修を開催し、宮城県震災復興計画及び宮城県社会資本再生・復興計画等の講義を中心にした土木部研修を開催した。
	23日	<u>第1回建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会 開催</u> 復旧・復興工事の建設資材不足等の対策について、東北地方整備局、東北農政局、東北森林管理局、仙台市、関係団体等で意見交換し、情報共有を図った。
	24日	<u>復興JV（復旧・復興建設工事共同企業体）の運用 通知</u> 復興JV構成員の配置技術者、兼務対象とする工事、兼務できる工事の条件等の運用を定め、関係部局に通知した。
	28日	<u>第四次県工事事務事故防止対策推進計画及び平成24年度事故防止対策事業計画 決定</u> 県工事事務事故防止対策委員会（委員長：三浦副知事）を開催し、復旧・復興工事等における安全管理についての基本方針、目標、県として取り組む事故防止対策を決定した。
6月	15日	<u>第3回復旧・復興事業の施工確保に関する連絡協議会 出席</u> 復興まちづくり事業推進のための新たな発注方式、予定価格等の適切な算定、技術者及び技能者の確保、資材の確保に関する対策について、復興庁、国土交通省、農林水産省、被災3県、仙台市、関係団体等で意見交換し、情報共有を図った。
	29日	<u>施工箇所が点在する工事の間接費の積算について 通知</u> 点在する工事箇所間の距離が100mを超える工事は、工事箇所毎に共通仮設費、現場管理費を算出できることを通知した。



▲第1回建設資材対策東北地方連絡会
宮城県分会の開催状況

7月	5日	<u>第582回建設技術講習会「災害に強い安全な国土づくり」</u> 開催 今回の講習会は、災害時の初動体制、津波防災対策、被害軽減のための防災・危機管理体制のあり方などを学び、今後の防災・減災対策に活かすことを目的に開催された。 県と宮城県建設技術協会は、開催県事務局として参加し、会場においては復旧・復興パネル展を開催し、被災地の被害状況や復旧・復興へ向けた取り組みを紹介し情報を共有した。  ▲建設技術講習会での知事挨拶の様子 <u>12日 被災建築物解体撤去工事（仙台市発注）の立ち入りに係る事前調査</u> 建設業法に係る立入調査の事前調査として、被災建築物解体撤去工事（仙台市発注）を受注している（社）仙台建設業協会から受注の仕組み、工事の進捗状況、今後の見込み、問題点の聞き取り調査を実施した。 <u>18日 被災建築物解体撤去工事（仙台市発注）の立ち入りに係る事前調査</u> 建設業法に係る立入調査の事前調査として、被災建築物解体撤去工事（仙台市発注）を受注している宮城県解体工事業協同組合から受注の仕組み、工事の進捗状況、今後の見込み、問題点の聞き取り調査を実施した。 <u>23日 第2回建設資材対策東北地方連絡会 出席</u> 復旧・復興工事の建設資材不足等の対策について、東北地方整備局、被災3県、仙台市、関係団体等で意見交換し、情報共有を図った。 <u>26日 アスファルト舗装工事における下請負制限の一部緩和 通知</u> 復旧・復興工事等のアスファルト舗装工事で入札不調が増加していることから、請負代金額の5割未満の部分について下請負による施工を認めることを通知した。 <u>31日 第2回建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会 開催</u> 復旧・復興工事の建設資材不足等の対策について、東北地方整備局、東北地方整備局、東北農政局、東北森林管理局、仙台市、関係団体等で意見交換し、情報共有を図った。  ▲第2回建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会の開催状況
8月	8日	<u>解体工事業を対象とした建設業法遵守に係る講習会</u> 開催 被災建築物解体工事に従事する解体工業業を対象とした建設業法遵守に係る講習会に講師を派遣し、建設業法遵守の徹底を図った。

8月	15日	<u>工事請負契約締結後における単価適用年月日変更の運用について 通知</u> 特定の資材価格が短期間に高騰し、積算時の設計単価と工事請負契約時の設計単価に差異が生じていることから、工事請負契約締結後に単価適用年月日を工事請負契約時に変更して設計単価とすることを通知した。
	23日	<u>東日本大震災に伴う復興工事の執行限度額の拡大について 通知</u> 東日本大震災に伴う復旧工事は1件3億円未満の工事の施行が事務所長に委任されていたが、平成24年9月1日以降は復興工事についても委任されることを通知した。
9月	7日	<u>自治法派遣職員研修 開催</u> 東日本大震災の復旧・復興を支援していただいている自治法派遣の職員に対して、本県における復旧・復興事業の現状や課題等を習得していただき円滑な業務遂行を図る目的として、土木部研修を開催した。
		▲自治法派遣職員研修の様子

3 用地課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	2日	<u>不動産鑑定評価の情報提供</u> 県の災害復旧・復興事業用地を取得するため、一括発注した不動産鑑定評価の結果について、被災市町に対して情報提供を行った。（評価地点：津波被災15市町内136地点）
	18日	<u>「土地価格情報連絡会議」開催</u> （東北地区用地対策連絡会宮城県支部） 各起業者（国、県、被災市町等）が実施した不動産鑑定評価の結果や今後の計画など、被災地における土地情報等について意見交換等を行うとともに、不動産鑑定一括評価を行った鑑定士から評価額等の解説や震災補正率の考え方に関する説明を受けた。
5月	8日 ～ 11日	<u>「用地講座」開催</u> 被災市町を支援する観点から、県の新任用地職員を対象として実施している用地講座（研修）の受講対象者を市町村職員に拡大し実施した。 〈市町村職員の参加状況〉 被災市町含め21市町 60名参加
	16日 ～ 30日	<u>「被災市町に対する用地補償に関する相談会」開催</u> 希望した8市町が抱える諸課題について、助言・指導を行った。（東部・気仙沼土木事務所管内は、現地にて実施）
	6月 1日 ～ 13日	<u>第1回用地業務ヒアリング</u> （5月22日～） 用地取得業務の円滑な推進を図るため、各土木事務所における事務処理及び進行管理の状況を把握するとともに、災害復旧・復興事業の諸課題の早期解決に向けて、現地指導等を行った。
7月	25日 ～ 27日	<u>用地・技術合同出前講座 開催</u> 用地課と河川課等が一体となって、仙台・東部・気仙沼の各土木事務所に出向き、事務所の用地・技術職員とともに、河川・海岸事業の具体的な事業箇所について、用地・技術両面における諸課題の検討を行った。同時に、多数相続地等任意取得が困難な土地を計画的に取得できるよう、事業認定から土地収用に至るスケジュール等の説明を行い、土地収用制度の早期着手と効果的活用を促した。（沿岸3土木事務所にて実施、64名参加）

8月	22日	<u>第2回宮城県復旧・復興に係る土地境界・権利等の問題に関する連絡会における要望</u> 法務省（仙台北務局）、国土交通省（東北地方整備局）、復興庁（宮城復興局）で構成する宮城県復旧・復興に係る土地境界・権利等の問題に関する連絡会の第2回会議に出席を求められ、災害復旧・復興事業の用地取得における諸課題等について説明するとともに、「所在者不明土地に係る境界確定権限及び事業用地の譲渡又は使用等に関する権限等を被災市町に付与する特例措置」について要望した。
9月	24日	<u>第1回用地補償実務研修 開催</u> 土地収用制度の効果的活用を実践するため、東北地方整備局及び宮城県収用委員会事務局職員を講師として、用地職員及び技術職員を対象に「事業認定」及び「収用裁決申請」に関する研修を開催した。（用地職員18名、技術職員21名、計39名参加）
		<u>土木部内事業進行管理委員会に「用地部会」を設置</u> 復旧・復興事業用地の取得促進と諸課題の早期解決を図るため、新たに本庁及び沿岸3土木事務所の事業進行管理委員会に用地・技術・管理の三部門の職員で構成する専門部会（用地部会）を設置した。

4 道路課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	6日	<u>三陸沿岸道路 仙塩道路4車線化着工式</u> 多賀城IC新設と併せて、渋滞緩和と広域的経済活動支援や災害時の救援活動支援を図るため、H24年度3次補正予算で事業化決定した。
		 ▲三陸沿岸道路 仙塩道路4車線化着工
5月	22日	<u>第1回 復興道路連絡調整会議</u> 測量・調査設計、埋蔵文化財文化財調査、用地取得状況等、事業進捗状況を確認し、具体的な内容について検討した。
		 ▲第1回 復興道路連絡調整会議
	31日	<u>国道113号館矢間バイパス全線開通</u> 市街地交通の混雑解消及び、物流・観光や広域連携及び防災道路ネットワーク形成推進への寄与が期待される。
		 ▲国道113号館矢間バイパス全線開通
6月	19日	<u>「東日本大震災に対処するための予算措置等を求める要望書」提出（政府要望）</u> 復興に向けた広域道路ネットワーク網の整備促進及び国直轄災害復旧事業に係る直轄事業負担金の免除／高速道路のサービスエリア等の防災機能強化や新たな施設整備／高速道路の無料化 について要望した。
	28日	<u>第1回 山王遺跡発掘調査連絡調整会議</u> 確認事項、問題点の共有、今後の方針について検討した。

7月	12日	<u>仙台松島道路4車線化</u> 利府中 IC～松島海岸 IC 間の4車線での本線供用が始まり、震災で甚大な被害を受けた三陸沿岸地域への重要な物流基盤である仙台松島道路の利便性が向上し、これからの被災地の早期復興に向け、大きな弾みとなることが期待される。		▲仙台松島道路4車線化
	12日	<u>第2回 県道大島浪板線大島架橋設計検討委員会</u> 災害に強く、耐久性に優れ、維持管理性の高い橋梁の整備を目指して開催し、広く優れた識見を有する方々からの助言・指導をいただいている。		▲大島架橋設計検討委員会
	30日	<u>「未来のまちづくり・みちづくりフォーラム」(～8月1日)</u> ハイスクールサミット in 東北を開催し、東北6県をはじめ全国24都道府県41校から参加した84名の高校生が、「安心して暮らせるまちづくり・みちづくり」「大震災の伝承と備え」等、4テーマに分かれて、活発な議論を交わした。		▲ハイスクールサミット in 東北開催
8月	2日	<u>第2回 山王遺跡発掘調査連絡調整会議</u> 調査方針・調査行程・設計の進捗等について報告し、課題について確認・協議を実施した。		
	8日	<u>春日パーキングエリア完成式</u> 県内の常磐自動車道から三陸縦貫自動車道において、初めての本格的なパーキングが完成し、特別名勝松島や国府多賀城など観光地への拠点機能も期待される。		▲春日パーキングエリア完成式
	28日	<u>第12回 東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議</u> (仮)多賀城 IC 付近埋蔵文化財調査工程及び工事工程打ち合わせを実施した。		
9月	8日	<u>石巻北 IC・県道石巻北インター線着工式</u> 県道石巻北インター線は、国が三陸縦貫自動車道に新たに設置する石巻北 IC へのアクセス道路であるとともに、国道45号や国道398号石巻バイパスと結ぶ重要な路線であり、整備することにより、「石巻赤十字病院」とのアクセス強化や、石巻圏域の交通・物流の強化、さらには、大規模災害時における避難路や支援路等として非常に重要な役割を果たすことが期待される。		▲石巻北 IC・県道石巻北インター線着工式

5 河川課

年	月	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
5月	9日	<u>第一回三陸南沿岸・石巻海岸地区環境等検討懇談会</u> 河川・海岸施設の復旧にあたり、「南三陸地域・石巻地区」の現場に即した環境等への配慮事項に関して委員の方々から技術的な指導や助言を受けることを目的として懇談会を開催した。
	17日	<u>東日本大震災による津波被災の復旧方法・予定等についてHPに公表</u> 各河川・海岸の復旧方法の具体的な位置や堤防高さ、復旧スケジュール、完成後のイメージ図等を紹介した。
6月	7日	<u>菖蒲田海岸災害復旧工事着工式</u> 県と七ヶ浜町の共催で、宮城県副知事、渡邊七ヶ浜町長及び来賓の方々の参加のもと、菖蒲田海岸災害復旧工事着工式を執り行った。工事概要（復旧箇所：宮城県七ヶ浜町菖蒲田浜地先、復旧延長：L＝1,691m、堤防高さ：T.P. 6.8m、復旧期間：平成24年度から平成27年度まで、復旧費：2,952百万円）
7月	5日	<u>みやぎ出前講座</u> ダイダン株式会社より「みやぎ出前講座」の依頼があり、「宮城県沿岸地域における海岸堤防高さと津波防御」と題して、講演を行った。



▲第一回三陸南沿岸・石巻海岸地区環境等懇談会



▲河川課ホームページ（5月17日公表）



▲菖蒲田海岸災害復旧工事着工式（鉄入れ）



▲みやぎ出前講座

	11日	<u>第二回三陸南沿岸・石巻海岸地区環境等検討懇談会</u> 5月に開催した三陸南沿岸・石巻海岸地区環境等検討会の第二回を開催した。	 ▲第二回三陸南沿岸・石巻海岸地区環境等懇談会
	31日	<u>気仙沼市（大谷地区）津波シミュレーションに係る地元説明会</u> 気仙沼市（大谷地区）要望により,津波シミュレーションについて詳細な説明を行った。	
8月	8日	<u>防潮堤を勉強する会 講演（河川課長）</u> 気仙沼市で行われた第一回防潮堤を勉強する会にて,防潮堤建設計画の基本的な流れとルールの説明を行った。	
	31日	<u>戸倉海岸災害復旧工事着工式</u> 県と南三陸町の共催で,宮城県副知事,南三陸町長及び来賓の方々の参加のもと,戸倉海岸災害復旧工事の着工式を執り行った。工事概要（復旧箇所：本吉郡南三陸町戸倉字長須賀地内,復旧延長：L＝619.2m,堤防高さ：T.P. 8.7m,復旧期間：平成24年度から平成27年度まで,復旧費：1,421百万円）	 ▲戸倉海岸災害復旧工事着工式（鉤入れ）
9月	13日	<u>河川・海岸構造物の災害復旧に関する技術基準説明会</u> 各土木事務所・関係各課・各コンサルタントを対象に,河川・海岸の災害復旧の技術基準及び実施保留解除資料の作成方法について説明会を開催した。	 ▲河川・海岸構造物の災害復旧に関する技術基準説明会の開催

6 防災砂防課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）																																																															
4月	25日	復旧・復興パネル展	 ▲道の駅でのパネル展示状況																																																														
	～	公共土木施設の復旧について、「復旧・復興パネル展」を開催し、広く情報発信するとともに、風化しかけている被災経験を呼び起こすことで防災意識の啓発を図るため、各地開催されるイベント等に、パネルの貸し出しを行っている。 パネル展 開催一覧表 <table><thead><tr><th>開催名称</th><th>開催期間</th><th>開催場所</th><th>関係団体</th></tr></thead><tbody><tr><td>仙塩浄化センター下水処理開始式</td><td>H24.4.25</td><td>仙塩浄化センター</td><td>中南部下水道事務所</td></tr><tr><td>H24津波防災パネル展</td><td>H24.5.1～5.17</td><td>県庁ロビー2階</td><td>防災砂防課</td></tr><tr><td>中国民間航空局への情報提供 及び全国販売促進会議</td><td>H24.5.8 H24.5.28～5.30</td><td>県内一円</td><td>観光課</td></tr><tr><td>H24栗原市総合防災訓練</td><td>H24.6.17</td><td>一迫中央公園</td><td>栗原市</td></tr><tr><td>道の駅パネル展示</td><td>H24.6.22～6.29</td><td>道の駅 三本木</td><td>北部土木事務所</td></tr><tr><td>道の駅パネル展示</td><td>H24.7.2～7.31</td><td>道の駅 岩出山</td><td>北部土木事務所</td></tr><tr><td>第582回全建建設技術講習会</td><td>H24.7.4～7.5</td><td>太白区文化センター</td><td>（社）全国建設技術協会</td></tr><tr><td>ソラヘさっと臨空復興フェスタ</td><td>H24.7.28～7.29</td><td>美田園駅前特設会場</td><td>空港臨空地域課</td></tr><tr><td>東日本大震災パネル展</td><td>H24.8.3～16</td><td>イオンタウン佐沼 専門店モール</td><td>登米地域事務所</td></tr><tr><td>春日PA常設展示</td><td>H24.8.8～</td><td>仙台松島道路春日PA</td><td>防災砂防課・宮城県道路公社</td></tr><tr><td>東北3県復興計画報告・講演会</td><td>H24.8.30</td><td>ホテルメトロポリタン仙台</td><td>建設センター</td></tr><tr><td>ばりあふりーフェスティバル</td><td>H24.9.8～9</td><td>AER 仙台市情報産業プラザ</td><td>障害福祉課</td></tr><tr><td>記憶をつなぐ 一津波災害と文化遺産ー</td><td>H24.9.27～11.27 H24.1.30～3.15(予定)</td><td>国立民族学博物館 国文学研究資料館</td><td>国立民族学博物館 国文学研究資料館</td></tr><tr><td>EE東北'12</td><td>H24.10.24～25(予定)</td><td>夢メッセみやぎ</td><td>事業管理課</td></tr><tr><td>地震・津波防災フェア</td><td>H24.10.28～11.4(予定)</td><td>イオンモール名取</td><td>イオンモール名取（防災砂防課）</td></tr></tbody></table>		開催名称	開催期間	開催場所	関係団体	仙塩浄化センター下水処理開始式	H24.4.25	仙塩浄化センター	中南部下水道事務所	H24津波防災パネル展	H24.5.1～5.17	県庁ロビー2階	防災砂防課	中国民間航空局への情報提供 及び全国販売促進会議	H24.5.8 H24.5.28～5.30	県内一円	観光課	H24栗原市総合防災訓練	H24.6.17	一迫中央公園	栗原市	道の駅パネル展示	H24.6.22～6.29	道の駅 三本木	北部土木事務所	道の駅パネル展示	H24.7.2～7.31	道の駅 岩出山	北部土木事務所	第582回全建建設技術講習会	H24.7.4～7.5	太白区文化センター	（社）全国建設技術協会	ソラヘさっと臨空復興フェスタ	H24.7.28～7.29	美田園駅前特設会場	空港臨空地域課	東日本大震災パネル展	H24.8.3～16	イオンタウン佐沼 専門店モール	登米地域事務所	春日PA常設展示	H24.8.8～	仙台松島道路春日PA	防災砂防課・宮城県道路公社	東北3県復興計画報告・講演会	H24.8.30	ホテルメトロポリタン仙台	建設センター	ばりあふりーフェスティバル	H24.9.8～9	AER 仙台市情報産業プラザ	障害福祉課	記憶をつなぐ 一津波災害と文化遺産ー	H24.9.27～11.27 H24.1.30～3.15(予定)	国立民族学博物館 国文学研究資料館	国立民族学博物館 国文学研究資料館	EE東北'12	H24.10.24～25(予定)	夢メッセみやぎ	事業管理課	地震・津波防災フェア	H24.10.28～11.4(予定)
開催名称	開催期間	開催場所	関係団体																																																														
仙塩浄化センター下水処理開始式	H24.4.25	仙塩浄化センター	中南部下水道事務所																																																														
H24津波防災パネル展	H24.5.1～5.17	県庁ロビー2階	防災砂防課																																																														
中国民間航空局への情報提供 及び全国販売促進会議	H24.5.8 H24.5.28～5.30	県内一円	観光課																																																														
H24栗原市総合防災訓練	H24.6.17	一迫中央公園	栗原市																																																														
道の駅パネル展示	H24.6.22～6.29	道の駅 三本木	北部土木事務所																																																														
道の駅パネル展示	H24.7.2～7.31	道の駅 岩出山	北部土木事務所																																																														
第582回全建建設技術講習会	H24.7.4～7.5	太白区文化センター	（社）全国建設技術協会																																																														
ソラヘさっと臨空復興フェスタ	H24.7.28～7.29	美田園駅前特設会場	空港臨空地域課																																																														
東日本大震災パネル展	H24.8.3～16	イオンタウン佐沼 専門店モール	登米地域事務所																																																														
春日PA常設展示	H24.8.8～	仙台松島道路春日PA	防災砂防課・宮城県道路公社																																																														
東北3県復興計画報告・講演会	H24.8.30	ホテルメトロポリタン仙台	建設センター																																																														
ばりあふりーフェスティバル	H24.9.8～9	AER 仙台市情報産業プラザ	障害福祉課																																																														
記憶をつなぐ 一津波災害と文化遺産ー	H24.9.27～11.27 H24.1.30～3.15(予定)	国立民族学博物館 国文学研究資料館	国立民族学博物館 国文学研究資料館																																																														
EE東北'12	H24.10.24～25(予定)	夢メッセみやぎ	事業管理課																																																														
地震・津波防災フェア	H24.10.28～11.4(予定)	イオンモール名取	イオンモール名取（防災砂防課）																																																														
5月	9日	凍上災にかかる現地講習会 開催 今年の冬は、西高東低の冬型の気圧配置が強く寒気の影響を受け、極端な低温状況が続いた。 このため、県内各地の道路で舗装面にひび割れ、不陸などの凍上被害（凍上災）が発生した。 被災箇所の早期復旧に向け、すみやかな災害申請が行えるよう、県及び市町村担当者を対象とした凍上災に係る講習会を開催した。	 ▲現地講習会状況  ▲被災状況  ▲現地講習会状況																																																														

5月	24日	「平成24年度 宮城県砂防研修会」開催 市町村長を対象とし、国土交通省山下砂防施設評価分析官には、「近年の土砂災害とこれからの対策」について、（社）全国治水砂防協会原常任参与には、「大規模な土砂災害に対する市町村としての課題」についてと題しての講演を頂き、研修会を開催した。		▲研修会風景
	26日	津波防災シンポジウム 県では昭和35年にチリ地震津波が襲った5月を「みやぎ津波防災月間」と定め、毎年様々な取り組みを実施してきている。今年度は、東日本大震災の教訓を踏まえ、過去の歴史津波について学び、また、今回の津波で経験したことを記憶に留め、今後の防災対策に役立てるとともに、後世に確実に伝えていくことが非常に重要と考え、“歴史が伝える津波、歴史にしていづく津波”をテーマに設定し、5月26日（土）、県庁講堂で開催した。シンポジウムでは、過去の津波や今回の津波現象、被害状況を分析した成果を千葉工業大学の後藤上席研究員、東北大学の越村教授に講演いただいた。シンポジウムを聴講した県民の皆様の防災意識の向上と、聴講により得られたものを家庭や地域、職場などで共有することにより、地域防災力の向上を図るとともに、史実として残していくことの重要性を認識していただいた。参加者は250名余りとなり、関心の高さが伺えた。		▲津波防災シンポジウム開催状況
6月	1日から14日	6月の土砂災害防止月間に併せて、土砂災害から被害を軽減するための各種取り組みを実施した。 <u>H23 土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール入賞作品展示</u> 土砂災害及びその防止についての理解と関心を県民の皆様に深めていただくため、次代を担う小・中学生を対象に開催したコンクールの入賞作品を展示した。 平成23年度は、全国4,200点を超える応募作品のうち、県内の小・中学校から、最優秀賞にあたる「国土交通大臣賞」を1名、優秀賞に当たる「事務次官賞」を2名が受賞した。 <u>土砂災害危険箇所等の点検パトロール</u> 1日から30日 県や市町村職員に加え、宮城県砂防ボランティア協会の協力により、東日本大震災に伴い建設された仮設住宅や災害時要援護者施設などに隣接している危険箇所など、約150箇所の点検パトロールを行った。 <u>土砂災害防止に関する講習会</u> 11日 市町村職員を対象に、土砂災害に対する警戒避難体制整備等の講習会を開催した。		▲土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール入賞作品展示
				▲土砂災害危険箇所等の点検パトロール

6月 12日

総合防災訓練

東日本大震災の経験を踏まえ、今後も起こり得る大規模地震・津波等に対する防災体制の確立と防災意識の高揚を図るため、宮城県震災対策推進条例に定める「みやぎ県民防災の日」（6月12日）に合わせて総合防災訓練を実施した。土木部では、災害対策本部の訓練（全庁訓練）と平行し、本庁と地方機関が連携し、一昨年から運用開始している BCP 計画の検証を行う訓練内容とした。



▲衛星携帯電話による現地との連絡訓練状況



▲土木部災害対策本部開催状況



▲県災害対策本部開催状況

7月 9日

災害査定

～
8月
31日

今年は、2月及び3月の低温による災害、平成24年4月30日から5月5日にかけての豪雨による災害、平成24年6月14日から28日にかけての梅雨前線豪雨及び台風4号による災害が発生した。これを受け、7月9日を皮切りに8月末までに5次にわたる災害査定を実施し、県で139件2,814,927千円、市町村で328件4,264,203千円、合計467件7,079,130千円が査定決定された。

査定区分	区分	査定決定	
		件数	金額(千円)
平成24年2月低温 平成24年3月低温	県事業	42	808,799
	市町村	251	3,891,746
	計	293	4,700,545
5月豪雨	県事業	67	1,385,471
	市町村	56	234,817
	計	123	1,620,288
梅雨前線・台風4号	県事業	30	620,657
	市町村	21	137,640
	計	51	758,297
計	県事業	139	2,814,927
	市町村	328	4,264,203
	計	467	7,079,130



▲概況説明の様子



▲現地査定の様子

8月 ～ 9月	18日	<u>応援都道府県への報告会の開催</u> 現在、本県の公共土木施設（土木部所管）の復旧・復興にあたり、28都道県から104名（平成24年4月1日現在）の自治法派遣の職員に応援をいただいている。 そこで、現在派遣を頂いている各都道県へ感謝もこめ、広く東日本大震災の教訓を伝え、派遣の御礼、継続要請とあわせ、本県の被害状況、復旧・復興に向けた取り組み、大震災を踏まえた今後の防災対策のあり方や課題等の報告を行った。 今回の報告会は、国が南海トラフの被害想定見直しを発表した直後のため、各県とも地震、特に津波に対する意識が高く、熱心に聴講して頂いた。
	14日	



▲ 8月31日千葉県訪問状況



▲ 9月5日高知県訪問状況

7 港湾課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）	
3月	30日	<u>外貿定期コンテナ航路（韓国航路）再開</u> 仙台塩釜港と釜山港をダイレクトに結ぶ航路であり、釜山港経由で世界各国と輸出入が可能。	 ▲韓国航路再開
4月	28日	<u>高砂コンテナターミナルガントリークレーン3号機の供用再開</u> 3号機の稼働により、ガントリークレーン4基全て復旧した。	 ▲3号機（奥）
5月	17日	<u>外貿定期コンテナ航路（中国／韓国航路）再開</u> 外貿コンテナ航路は、これで4航路・週4便運航となった。（震災前は5航路・週5便）	 ▲中国／韓国航路再開式典
6月	1日	<u>宮城県港湾復興大会開催</u> 本県港湾の早期復旧・復興を図るため、港湾関係団体等約400名が一堂に集い、大会決議を採択した。	 ▲大会の様子
	4日	<u>石巻港岸壁の災害復旧工事着工式開催</u> 本格的な災害復旧工事の着手にあたり、大手埠頭において着工式を執り行った。	 ▲石巻港着工式

6月	21日	石巻港の復旧方法・復旧予定をホームページで公表	 ▲港湾施設復旧計画（南防波堤）																									
7月	13日	松島港，女川港，荻浜港の復旧方法・復旧予定ホームページで公表	 ▲松島港																									
8月	7日	仙台塩釜港，石巻港，松島港の統合一体化について，国土交通大臣への同意協議書を提出 運輸審議会へ諮問される見込みとなった。																										
	16日	金華山港・雄勝港及び表浜港の復旧方法・復旧予定ホームページで公表																										
	28日	仙台塩釜港の復旧方法・復旧予定ホームページで公表	 ▲港湾施設復旧計画（防波堤）【金華山港】  ▲港湾施設復旧計画（中央公園前護岸）【仙台塩釜港】																									
9月	18日	気仙沼港・御崎港の復旧方法・復旧予定ホームページで公表	 ▲港湾施設復旧計画（-4.5m岸壁外）【気仙沼港】																									
	30日	平成24年上半期の県内主要港湾取扱貨物量の集計結果（速報値）をホームページで公表 本県の港湾取扱貨物量は、昨年の東日本大震災による港湾機能の一時停止や利用企業の被災などにより、平成23年全体では、平成22年比70%弱まで減少したが、今回平成24年上半期の主要港湾の取扱貨物量を集計した結果、一部の港湾では平成22年の取扱貨物量の実績を超えた。																										
		○平成24年上半期の県内主要港湾取扱貨物量の動向 1 主要各港の取扱貨物量 表1. 貨物量全体（フレートトン） <table><tr><th>港名</th><th>平成24年 上半期累計</th><th>平成23年 上半期累計</th><th>平成22年 上半期累計</th><th>H22比（%）</th></tr><tr><td>仙台塩釜港</td><td>18,089,863</td><td>11,565,839</td><td>17,262,643</td><td>104.8%</td></tr><tr><td>仙台港区</td><td>16,299,811</td><td>10,251,985</td><td>16,159,688</td><td>100.9%</td></tr><tr><td>塩釜港区</td><td>1,790,052</td><td>1,313,854</td><td>1,102,955</td><td>162.3%</td></tr><tr><td>石巻港</td><td>1,309,988</td><td>772,576</td><td>1,949,748</td><td>67.2%</td></tr></table> - 仙台塩釜港の取扱貨物量は、平成22年に比べて100%を超え回復している。 - 石巻港は、平成22年に比べて70%弱となっている。	港名	平成24年 上半期累計	平成23年 上半期累計	平成22年 上半期累計	H22比（%）	仙台塩釜港	18,089,863	11,565,839	17,262,643	104.8%	仙台港区	16,299,811	10,251,985	16,159,688	100.9%	塩釜港区	1,790,052	1,313,854	1,102,955	162.3%	石巻港	1,309,988	772,576	1,949,748	67.2%	 図1. 主要港湾取扱貨物量の推移（H22.1～H24.6）
港名	平成24年 上半期累計	平成23年 上半期累計	平成22年 上半期累計	H22比（%）																								
仙台塩釜港	18,089,863	11,565,839	17,262,643	104.8%																								
仙台港区	16,299,811	10,251,985	16,159,688	100.9%																								
塩釜港区	1,790,052	1,313,854	1,102,955	162.3%																								
石巻港	1,309,988	772,576	1,949,748	67.2%																								

8 空港臨空地域課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	29日	<u>仙台空港臨空公園の開園</u> 震災の影響により1年遅れでの開園となった。約1ヘクタールの園内に遊具広場や芝生広場を配置し、また展望スペースからは迫力ある飛行機の離着陸が間近に観察できる。幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけるよう工夫しており、連日家族連れや飛行機マニアの方々に賑わっている。
5月	2日	<u>仙台－バンコク線のチャーター便が4年ぶりに運航</u> タイからの観光客34人に対して伊達武将隊らと歓迎の出迎えを実施した。
	21日	<u>仙台－ソウル線のデイリー運航再開</u> 昨年9月に週3往復で再開されたソウル線がデイリー化（震災前の状況に復活）され、運航再開記念セミナーが盛大に開催された。
	29日	<u>第2回仙台空港等活性化検討会開催</u> 1 民間研究会からの報告（①仙台空港活性化研究会 ②国際物流拠点化研究会 ③仙台空港周辺開発研究会） 2 「みやぎ国際ビジネス・観光拠点化構想（案）」の報告（県） 他



▲仙台空港臨空公園



▲仙台－バンコク線チャーター便到着のお出迎え



▲仙台・ソウル線毎日運航再開記念セミナー

6月	7日	<u>台湾産マンゴーが震災後、初空輸</u> 約2トンの輸入マンゴーは、仙台エアカーゴターミナル内で通関及び植物防疫検査を受けた後、県内外のスーパーに輸送され、翌日から販売された。	 ▲ 台湾産マンゴー到着
	9日	<u>ひまわりプロジェクト開催</u> 「なとりりんくうタウン」内の美田園第2仮設住宅地に、首都圏の一般家庭や学校などから届いたひまわりの苗が植えられた。	 ▲ 植え付けに集まったボランティア
	14日	<u>名取市地域公共交通連携協議会総会開催</u> 仙台空港アクセス鉄道の利用促進に向けた年間活動計画が承認された。	
7月	6～9日	<u>仙台空港就航地キャンペーン実施</u> 仙台七夕祭り開催を前に、仙台空港との就航地（大阪、名古屋）を訪問して、仙台空港を利用した観光をPR	 ▲ 名古屋市副市長を表敬訪問
	10～14日	<u>外国人モニターツアー開始（仙台・宮城東アジア観光情報発信事業）</u> 韓国人モニターツアー（7/10～14）実施 参加者：6名 ツアー先：青葉城、秋保、松島、栗駒山、平泉	
	28・29日	<u>仙台空港・アクセス鉄道復興イベント</u> 「ソラヘサツとりんくう 復興 フェスタ」開催 仙台空港アクセス鉄道沿線（仙台空港駅、美田園駅前広場、イオンモール名取）を会場に、空港・鉄道の復興をPRするとともに、沿岸市町復興市、就航地グルメ屋台、観光パネル展などの復興支援イベントを開催。 来場者数：のべ17,042人	 ▲ 仙台空港会場の様子

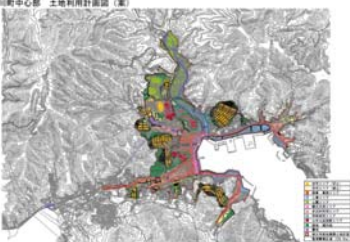
7月	30日	<u>「仙台ー長春線」再開</u> 「仙台ー長春線」(週2便)の再開により、定期便は、震災前と同じ国内8路線、海外6路線が復活した。 記念式典の後、長春からの搭乗者119人に対して歓迎の出迎えを実施した。 ▲中国南方航空仙台便再開記念式典
8月	5日 ～8日	<u>中国プレスツアー実施</u> 参加者：8名 ツアー先：蔵王、松島、平泉、日本酒醸造工場、アウトレットモール等
	7日	<u>長春龍嘉（りゅうか）国際空港と仙台空港との友好協定締結</u> 長春市内のホテルで、吉林省民航機場集团公司社長と仙台空港ビル㈱伊藤社長との間で友好協定が締結された。 ▲友好協定締結式の様子
	9～ 12日	<u>台湾一般モニターツアー実施</u> 参加者：17名 ツアー先：蔵王、平泉、小原、鳴子、鬼首、ウィスキー工場
	19日	<u>ラッピング電車 お絵かきトレインの運行</u> 「トレインお絵かきコンクール」が開催され、受賞作品の図柄によるラッピング電車が運行された。 ▲お絵かきトレインの運行
	24日	<u>「なとりりんくうタウン土地区画整理事業」完了</u> 「名取市下増田臨空土地区画整理組合」に対し、決算報告の承認書交付式を行った。これをもって名取市関下・下増田地区で進めてきた2つの区画整理事業がすべて完了した。 平成16年1月の事業認可からわずか8年半という短い期間で、185ヘクタール、人口約5千9百人（H24.8末現在）へと、「なとりりんくうタウン」は成長を続けている。

9月	3日	<u>第3回仙台空港等活性化検討会開催</u> 1 (仮称) 仙台空港の経営改革に関する宮城県基本方針(案)(県) 2 空港経営改革の動向について(国) 3 仙台空港及び周辺地域の将来像(素案)について(県) 4 民間研究会からの報告(仙台空港周辺開発研究会, 国際物流拠点化研究会)
	10日	<u>仙台空港ビル㈱ 防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞</u> 仙台空港ビル株式会社の東日本大震災における防災活動の功績に対して, 平成24年防災功労者内閣総理大臣表彰状が授与された。
	23日	<u>パラカップ SENDAI in SENDAI AIRPORT の開催</u> 名取, 宮城の復興を伝え, 観光振興につなげることを目的として, 市民ランナーによるチャリティーランニングイベントが開催され, 生憎の雨の中, 千人を超えるランナーが貞山堀周辺を中心とした周回コースを駆け抜けた。

9 都市計画課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	1日	<u>加瀬沼公園の再開園</u> ・一部復旧エリアを除く公園の再開 
	8日	<u>仙石線多賀城地区高架切換祈念式典開催</u> ・多賀城地区連続立体交差事業により4箇所の踏切が解消  
	19日	<u>第3回石巻市復興整備協議会</u> ・桃浦地区など計11地区の防災集団移転促進事業 
5月	22日	<u>第1回気仙沼市復興整備協議会</u> ・大沢地区など計5地区の防災集団移転促進事業 <u>第1回東松島市復興整備協議会</u> ・野蒜北部丘陵地区土地区画整理事業 <u>第3回岩沼市復興整備協議会</u> ・玉浦西地区防災集団移転促進事業（開発許可の特例追加）
	25日	<u>震災復興祈念公園構想検討会</u> ・県と沿岸被災15市町との検討会が発足
7月	2日	<u>第4回石巻市復興整備協議会</u> ・荻浜地区など計7地区の防災集団移転促進事業 ・小室地区など計7地区の防災集団移転促進事業（農地転用許可の特例追加） <u>第2回気仙沼市復興整備協議会</u> ・只越地区など計9地区の防災集団移転促進事業 <u>第2回女川町復興整備協議会</u> ・指ヶ浜地区など計13地区の防災集団移転促進事業

7月	3日	<u>第1回仙台市復興整備協議会</u> ・田子西地区など計14地区の防災集団移転促進事業 <u>第1回亙理町復興整備協議会</u> ・荒浜中野地区など計6地区の防災集団移転促進事業と災害公営住宅事業 ・いちご選果場整備事業 <u>第1回南三陸町復興整備協議会</u> ・藤浜地区など計3地区の防災集団移転促進事業	
	20日	<u>石巻市新蛇田地区 被災市街地復興土地区画整理事業 事業認可書交付式 開催</u> 石巻市新蛇田地区被災市街地復興土地区画整理事業が県内で初めて事業認可され、事業認可書交付式が開催された。	
	30日	<u>第5回石巻市復興整備協議会</u> ・新渡波地区被災市街地復興土地区画整理事業 ・泊浜太陽光発電事業 <u>第2回東松島市復興整備協議会</u> ・東矢本駅北地区被災市街地復興土地区画整理事業 ・矢本西地区など計7地区の防災集団移転促進事業と計6地区の災害公営住宅事業 <u>第2回南三陸町復興整備協議会</u> ・志津川東地区の津波復興拠点整備事業及び災害公営住宅事業	
8月	5日	<u>岩沼市防災集団移転促進事業玉浦西地区造成工事着手</u> ・起工式が行われ工事に着手	 
	20日	<u>第6回石巻市復興整備協議会</u> ・月浦地区など計4地区の防災集団移転促進事業 <u>第3回南三陸町復興整備協議会</u> ・田の浦地区など計8地区の防災集団移転促進事業 ・名足地区及び入谷地区の災害公営住宅整備事業	

8月	27日	<u>加瀬沼公園の災害復旧工事完了</u> 一部未供用であったエリアの完了   
9月	6日	<u>第159回宮城県都市計画審議会</u> 気仙沼市、女川町、南三陸町の都市計画道路の変更
	10日	<u>女川町荒立、陸上競技場跡地 被災市街地復興土地区画整理事業 事業認可書交付式 開催</u> 女川町荒立地区及び陸上競技場跡地地区被災市街地復興土地区画整理事業が事業認可され、事業認可書交付式が開催された。 事業認可書交付式の様子 (県土木部長から女川町副町長へ認可書が交付された)  <u>第3回気仙沼市復興整備協議会</u> - 鹿折地区及び南気仙沼地区の被災市街地復興土地区画整理事業 - 赤岩小田地区など計9地区の防災集団移転促進事業 <u>第2回名取市復興整備協議会</u> - 下増田地区の防災集団移転促進事業及び災害公営住宅整備事業 <u>第3回東松島市復興整備協議会</u> - 野蒜北部丘陵地区被災市街地復興土地区画整理事業 (保安林の解除・地域森林計画の変更・土地利用基本計画の変更) <u>第3回女川町復興整備協議会</u> - 荒立西地区など計8地区の防災集団移転促進事業 - 女川町被災市街地復興土地区画整理事業内の都市計画道路の決定など <u>第4回南三陸町復興整備協議会</u> - 志津川地区被災市街地復興土地区画整理事業 - 清水地区など計5地区の防災集団移転促進事業 - 志津川中央地区の津波復興拠点整備事業及び災害公営住宅事業 <u>29日 女川町被災市街地復興土地区画整理事業着手</u> - 着工式が行われ事業に着手  

10 復興まちづくり推進室

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	5日	<u>復興まちづくり事業に係る市町担当者 連絡会議開催</u> 県から、復興まちづくりに関連する事業や県の支援体制について説明が行われ、事業推進上の課題について、解決に向けた意見交換が行われた。また、年度当初ということもあり、冒頭には、全国の自治体から各市町へ派遣された応援職員の紹介が行われた。
	6日	
5月	14日	<u>金融機関向け防災集団移転促進事業説明会開催</u> 防災集団移転促進事業の制度や仕組みについて説明会を開催し、事業実施上の課題（特に移転元地にかかる抵当権問題）の解決を図るため、沿岸15市町、金融機関、県が意見交換を行った。
	15日	<u>防災集団移転促進事業勉強会開催</u> 防集事業計画の具体化に伴い生じる事業実施上の課題について解決を図るため、国土交通省の担当専門官を招き、勉強会を開催した。被災市町、国土交通省、県による活発な意見交換を行った。
7月	19日	<u>津波避難に関する勉強会開催</u> 災害に強いまちづくりの実現に向け津波避難計画などのソフト面整備の充実を図るため、勉強会を開催した。避難計画策定の事例紹介や津波避難タワーの見学会もあり、活発な意見交換が行われた。



▲応援職員の紹介



▲金融機関向け防災集団移転促進事業説明会



▲防災集団移転促進事業勉強会



8月	5日	全国第一号！ 岩沼市防災集団移転促進事業 玉浦西地区造成工事が始動 岩沼市玉浦西地区の造成工事の安全祈願祭・起工式が行われた。今回の津波被災地で初めて集団移転に向けた「復興への槌音」が響き渡る。	 ▲鉄入れの様子
	8日	復興まちづくりを推進するための多様な発注方式に係る勉強会開催 復興まちづくり関連事業におけるマンパワー不足を効率的・効果的な事業執行によりカバーし、事業が円滑に行われるよう、復興まちづくりを推進するための多様な発注方式に係る勉強会を開催した。 勉強会では、効果的な方法の一つである、CM方式※を活用した新たな発注方法や、土地区画整理事業における民間事業者包括委託方式ガイドライン、市町における先進事例が、国土交通省、(財)区画整理促進機構、市町担当者により紹介され、活発な意見交換が行われた。 ※CM（コンストラクション・マネジメント）方式とは 発注者の補助者・代行者であるCMR（コンストラクション・マネージャー）が、技術的な中立性を保ちつつ発注者の側に立って設計の検討や工事発注方式の検討、工程管理、コスト管理などの各種マネジメント業務の全部又は一部を行うもの	 ▲勉強会の様子
9月	29日	女川町復興まちづくり着工式 開催 土地区画整理事業では津波被災地で初めて工事着工の運びとなり、安住財務大臣や平野復興大臣ほか多数の来賓を迎え盛大に着工式が行われた。	 ▲着工式での鉄入れの様子

1 1 下水道課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	13日	平成24年度 第1回市町村下水道事業担当者会議（会場：県庁901会議室） ・災害復旧事業の設計変更について 他
	19日	国土交通省・防災課 災害復旧工事事前協議 ・協議設計の部分工事着手について 他
	25日	仙塩浄化センター下水処理開始式を開催
	30日 ～	 ▲下水処理開始式 ボタン操作状況
	5月 31日	
5月	11日	国土交通省・防災課 災害復旧工事事前協議 ・設計変更協議 他
	16日	国土交通省・下水道事業課 現地視察対応 ・仙塩浄化センター
	17日	国土交通省・下水道事業課 現地視察対応 ・石巻市
	23日	気仙沼市 復旧状況現地確認
	30日 31日	 ▲復旧前  ▲復旧後 国土交通省・防災課 災害復旧工事事前協議 ・設計変更協議，協議設計の実施保留解除 他 滋賀県議会議員行政視察対応 ・気仙沼市の復旧状況説明

6月	1日	下水道新技術セミナー（大阪市） 講師	
	8日	下水道新技術セミナー（東京都） 講師	
	15日	月刊「下水道」（7月号）に、震災直後からの被災情報等の発信をテーマに、宮城県の対応について寄稿	
	15日	国土交通省・防災課 災害復旧工事事前協議 ・設計変更協議 他	
	18日	東京電力(株)福島原子力補償相談室と損害賠償請求に関する打合せ 民間最終処分場、下水汚泥の受入停止	▲冊子『下水道機構情報』掲載記事抜粋
7月	5日	国土交通省・防災課 災害復旧工事事前協議 ・設計変更協議 他	
	11日	下水道公社主催「排水設備工事責任技術者更新講習」において、被災状況の説明並びに不明水流入増に関して、接続業者の立場として軽減を図るよう要請した。	
	12日	国土交通省・下水道事業課 現地視察対応 ・気仙沼市	
	27日	国土交通省・防災課 災害復旧工事事前協議 ・設計変更協議、協議設計の部分工事着手協議 他	
	31日	平成 24 年度 第 2 回市町村下水道事業担当者会議（会場：中南部下水道事務所） ・災害復旧事業の成功認定について ・協議設計案件の復旧事業促進について 他	
	31日	県南浄化センター水処理第 4 系列の処理開始 これまで段階的な復旧を進め、このたび同センター内の水処理施設についてはすべての復旧が完了。年内には、自家発電施設や第二脱水機棟が復旧予定で、順次稼働していく予定。	
▲水処理 第 4 系列			▲県南センター平面図

8月	1日	平成24年度 第2回市町村下水道事業担当者会議（会場：県南浄化センター） ・災害復旧事業の成功認定について	
	2日	平成24年度 第2回市町村下水道事業担当者会議（会場：大和浄化センター） ・災害復旧事業の成功認定について	
	10日	国土交通省・防災課 災害復旧工事事前協議 ・設計変更協議，協議設計の実施保留解除 他	
	11日	県南浄化センターで『夏休み親子で体験学習』を開催	
	23日	国土交通省・防災課 災害復旧工事事前協議 ・設計変更協議，協議設計の実施保留解除 他	
	28日	東北電力に対し、再生可能エネルギー発電促進賦課金の減免申請	
9月	3日 ～ 7日	市町村災害復旧工事の成功認定実施。（内陸部の市町村対象）	
	5日	下水道公社主催「排水設備工事責任技術者更新講習」において、被災状況の説明並びに不明水流入増に関して、接続業者の立場として軽減を図るよう要請。	
	18日	石巻東部浄化センターにおいて、「下水処理開始式」開催 同センターは、水処理施設の第1系列復旧に伴い震災前と同様の生物処理を開始することとなりました。	
	27日	国土交通省・防災課 災害復旧工事事前協議 その他 ・各処理場の下水汚泥について、放射性物質の濃度と空間線量を毎月計測し、マスコミに公表 http://www.pref.miyagi.jp/gesui/70_saigai/75_H23_3_11jisin.html ・津波により被災した仙塩・県南・石巻東部の放流水質について、毎週計測し下水道課 HP で公表 http://www.pref.miyagi.jp/gesui/70_saigai/76_H23_3_11jisin_suisitu.html	

▲県南浄化センターの見学状況

▲下水処理開始式

1 2 建築宅地課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	1日	<u>南三陸町が災害危険区域を指定</u> 南三陸町が建築基準法に基づく災害危険区域を指定した。
	16日	<u>（仮称）仙台市荒井東復興公営住宅構造計算適合性判定事前審査開始</u> （仮称）仙台市荒井東復興公営住宅に係る建築基準法に基づく構造計算適合性判定の事前審査を開始した。
5月	22日	<u>気仙沼市の防災集団移転促進事業に係る復興整備協議会の開催</u> 気仙沼市で最初の防災集団移転促進事業（波路上長磯浜地区外4地区）に係る復興整備協議会が開催された。 <u>造成宅地防災区域の指定</u> 亘理町の造成宅地滑動崩落緊急対策事業に関し、宅地造成等規制法に基づく造成宅地防災区域の指定を行った。
6月	1日	<u>東松島市が災害危険区域を指定</u> 東松島市が建築基準法に基づく災害危険区域を指定した。
	15日	<u>仙台市の防災集団移転促進事業に係る復興整備協議会の開催</u> 仙台市で最初の防災集団移転促進事業（田子西地区外13地区）に係る復興整備協議会が開催された。
	18日	<u>仙台市のがけ地近接等危険住宅移転事業計画の同意（第1回目、以後変更の都度同意。以下同じ。）</u> 仙台市のがけ地近接等危険住宅移転事業計画に対し、復興交付金制度要綱に基づき同意した。
7月	2日	<u>女川町の防災集団移転促進事業に係る復興整備協議会の開催</u> 女川町で最初の防災集団移転促進事業（指ヶ浜地区外12地区）に係る復興整備協議会が開催された。
	3日	<u>南三陸町、亘理町の防災集団移転促進事業に係る復興整備協議会の開催</u> 南三陸町及び亘理町で最初の防災集団移転促進事業（南三陸町：馬場・中山地区外2地区、亘理町：荒浜中野地区外5地区）に係る復興整備協議会が開催された。
	6日	<u>東松島市のがけ地近接等危険住宅移転事業計画の同意</u> 東松島市のがけ地近接等危険住宅移転事業計画に対し同意した。 <u>都市計画事業に準ずる事業として行う一団地の住宅施設の事前確認書の交付</u> 岩沼市長に対して、用地取得に係る譲渡所得の5,000万円特別控除を適用するための「都市計画事業に準ずる事業として行う一団地の住宅施設」の事前確認書を交付した。（玉浦西地区）
	11日	<u>第1回地域自立型応急危険度判定等実施体制検討会議の開催</u> 東日本大震災における被災建築物応急危険度判定及び被災宅地危険度判定の課題の検証と、様々な状況下においても判定活動が効果的に実施できる体制整備の検討を目的とした、地域自立型応急危険度判定等実施体制整備検討会議の第1回目の会議を開催した。



▲会議の様子

	19日	東日本大震災における被災建築物応急危険度判定・被災宅地危険度判定実施状況の記録の作成 宮城県建築物等地震対策推進協議会において、被災建築物応急危険度判定・被災宅地危険度判定実施状況の記録を500部作成し、全国に配布した。
	23日	気仙沼市のがけ地近接等危険住宅移転事業計画の同意 気仙沼市のがけ地近接等危険住宅移転事業計画に対し同意した。
	26日	民間賃貸借上げ住宅連絡会議での助言 県保健福祉部が災害救助法に基づいて整備する応急仮設住宅としての民間賃貸住宅（みなし仮設）について、その供与期間を延長するための再契約書の記載事項等について、宅地建物取引業法上の観点から助言を行った。
	30日	東松島市の防災集団移転促進事業に係る復興整備協議会の開催 東松島市で最初の防災集団移転促進事業（野蒜北部丘陵団地外6地区）に係る復興整備協議会が開催された。
8月	1日	平成24年度版耐震診断・耐震改修事業普及啓発用パンフレットの作成 助成事業の利用者からの声を掲載した平成24年度版の普及啓発用パンフレットを15,000部作成し、全県に配布した。
	5日	東日本大震災被災建築物の市街化区域内移転適地への移転に係る開発許可の弾力的運用基準の施行 国の技術的助言に基づき、東日本大震災被災建築物の市街化調整区域内移転適地への移転に係る開発許可制度の弾力的運用基準を定め、施行した。
	7日	「岩沼市玉浦西地区防災集団移転促進事業着工式」の開催 岩沼市玉浦西地区における防災集団移転促進事業の着工式が開催された。
	9日	宮城県における国と地方の協議会開催 東日本大震災復興特別区域法に基づく国と地方の協議会が開催され、防災集団移転促進事業の移転先の土地売却について、無条件に5,000万円の譲渡所得の特別控除を適用する特例を求めた。
	24日	亘理町のがけ地近接等危険住宅移転事業計画の同意 亘理町のがけ地近接等危険住宅移転事業計画に対し同意した。
	30日	仙台市鹿野復興公営住宅構造計算適合性判定事前審査開始 仙台市鹿野復興公営住宅に係る建築基準法に基づく構造計算適合性判定事前審査を開始した。
		応急仮設建築物の存続期間の延長に係る説明会の開催 東日本大震災復興特別区域法に基づく応急仮設建築物存続期間延長の特例措置に関し、関係市町への説明会を開催した。
9月	7日	平成25年度復興庁税制改正要望の公表 防災集団移転促進事業（50戸未満）の用地取得に係る譲渡所得の5,000万円特別控除が、平成25年度復興庁税制改正要望に盛り込まれた。



▲説明会の様子

13 住宅課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	2日	<u>解雇等により離職し、住居を失った方への県営住宅の募集</u> 解雇・雇い止め等により、寮・社宅等の住居から退去を余儀なくされた方への居住の場を確保するため、県営住宅提供の期間を平成24年9月28日まで延長しました。
	12日	<u>地域型復興住宅出発式</u> 地域住宅生産者グループ76グループの出発式が行われ、生産者グループ代表260名が出席した。
	13日	<u>宮城県住宅供給公社が仙台簡易裁判所に特定調停申立</u> 4金融機関を相手方として、分譲事業借入金122億2,600万円の支払方法等について協議するものであり、県は利害関係者として調停への参加を求められた。
	24日	<u>宮城県住宅供給公社の債務処理に係る調停（第1回）</u> 宮城県住宅供給公社の債務処理に係る調停（第1回）が行われた。
	末日	<u>住宅再建支援事業（二重ローン対策）実績</u> 当月 補助金交付決定 48件（補助額合計 22,967千円） 累計 補助金交付決定185件（補助額合計 89,667千円）
5月	10日	<u>地域住宅ブランド化事業説明会</u> 宮城県地域型復興住宅推進協議会主催で、国土交通省の補助事業である地域住宅ブランド化事業の説明会を行った。
	11,12日	<u>県営将監住宅の事業計画説明会</u> 県営将監住宅の政策空き家に係わる事業計画の住民説明会を開催した。
	21日	<u>平成23年度県営住宅明渡等訴訟の結果報告</u> 平成23年度県営住宅明渡等訴訟の結果について、建設企業委員会へ報告した。
	22日	<u>宮城県住宅供給公社の債務処理に係る調停（第2回）</u> 今回から県は裁判所調停委員会からの呼出を受け、調停に出席した。
	末日	<u>住宅再建支援事業（二重ローン対策）実績</u> 当月 補助金交付決定 28件（補助額合計 13,701千円） 累計 補助金交付決定213件（補助額合計103,368千円）

6月	21日	<u>県営多賀城八幡住宅外4団地物置・自転車置き場災害復旧工事着手</u> 多賀城八幡住宅団地，石巻鹿妻住宅団地，石巻門脇住宅団地，石巻黄金浜住宅団地，石巻吉野住宅団地の被災した物置及び自転車置き場の解体，再建築工事に着手した。   ▲八幡住宅被災物置解体状況 ▲八幡住宅物置再建築状況
7月	4日	<u>宮城県住宅供給公社の債務処理に係る調停（第4回）</u> 宮城県住宅供給公社の債務処理に係る調停（第4回）が行われた。
	17日	<u>宮城県住宅供給公社の債務処理に係る調停（第5回）</u> 第1回～第4回の調停における，公社，相手方4金融機関，県の協議結果等を踏まえ，裁判所調停委員会から「調停条項あっせん案」が提示された。 県は相手方4金融機関へ77億9,600万円の支払い及び公社への32億5,000万円の貸付を求められた。
	12～20日	<u>災害公営住宅管理手法のヒアリング</u> 災害公営住宅管理手法について，被災市町を訪問し，打合を実施した。（石巻市，気仙沼市，名取市，東松島市，塩釜市，亘理町，女川町，南三陸町，七ヶ浜町）
	12，19日	<u>生活保護受給者への代理納付制度導入要請</u> 生活保護受給者への代理納付制度について，名取市及び多賀城市を訪問し，制度利用の要請を行った。
	20日	<u>県営名取手倉田第二住宅1号棟解体工事着手</u> 被災した既設1号棟（30戸）の解体工事に着手した。
	27日	<u>県営黒松第一住宅（1～6号棟）団地解体設計完了</u> 被災した1～6号棟の解体設計完了。引き続き，解体工事発注準備に着手した。
	末日	<u>県営名取手倉田第二住宅1号棟解体工事着手</u> 被災した既設1号棟（30戸）の解体工事に着手した。

▲八幡住宅被災物置解体状況

▲八幡住宅物置再建築状況

8月	1日	<u>応急仮設住宅の居住環境の改善に係る付帯設備等着手</u> 応急仮設住宅の居住環境改善のため、給湯器（追い炊き機能付き）設置（13,007戸）及び物置設置（17,359戸）を開始した。 ▲給湯器（追い炊き機能付き）設置 ▲物置設置
	24日	<u>県営名取手倉田第二住宅1号棟新築設計完了</u> 被災した1号棟（30戸）の再建築設計完了。引き続き、工事発注準備に着手した。
	11日	<u>宮城県議会9月定例会開会</u> 宮城県住宅供給公社の債務処理に係る予算議案、調停条項の受諾議案など関連議案を提出した。建設企業委員会において、県営住宅等家賃減免制度の見直し及び平成24年県営住宅明渡等訴訟について報告した。
	11日	<u>第2回災害公営住宅管理手法</u> 被災市町と第2回災害公営住宅管理手法（指定管理・管理代行）に関する勉強会を開催した。
	22, 23日	<u>住まいの耐震博覧会について</u> 夢メッセみやぎで開催された「住まいの耐震博覧会」の相談コーナーで住宅再建支援制度相談を行った。 ▲住宅再建支援制度相談コーナー
	末日	<u>住宅再建支援事業（二重ローン対策）実績</u> 当月 補助金交付決定 30件（補助額合計 14,341千円） 累計 補助金交付決定328件（補助額合計158,473千円）

1 4 復興住宅整備室

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	1日	<u>復興住宅整備室新設</u> 市町の災害公営住宅の建設支援を主に担当する部署として新設され、東京都1名、愛知県2名、岐阜県1名、福岡県2名、大分県1名の計7名含め、全体で15名の組織でスタートを切った。
	23日	<u>大分県土木建築部長来室：激励の訪問挨拶</u>
	24日	<u>「第7回復興住宅市町村連絡調整会議」の開催</u> 災害公営住宅の整備に係る県の支援体制や会議の目的、宮城県復興住宅計画や災害公営住宅制度等に関して各市町の担当者に対し、過去の経緯を含め説明し、情報の共有を図った。
	26日	<u>福岡県知事来室：激励の訪問挨拶</u>
5月	21日	<u>買取制度担当者会議</u> 整備手法の一つである民間からの買取制度に対して、課題等の意見交換を行った。
	23日	<u>仙台市市営住宅見学会</u> 福祉サイドとの連携により、公営住宅の仕様やサイズの確認等を仙台市さんの協力のもと実施し、意見交換を行い、ガイドラインや設計の仕様等に反映した。
	25日	第1回買取検討会WG
	31日	<u>「みやぎふるさとBOOK2012」</u> <u>住宅部門「宮城県復興住宅計画（概要版）」掲載</u>
6月	8日	<u>みやぎ復興住宅整備推進会議第1回開催</u> 新たな時代を切り開く住宅・まちづくりを進めるため、関係機関や住宅関連団体が参加し、情報交換・共有を図るとともに、県民や全国に向けて、先進的で魅力ある宮城の住宅・まちづくりに関する情報発信を行った。



▲集合写真



▲福岡県知事来室



▲仙台市営住宅見学会



▲みやぎ復興住宅整備推進会議
(第1回)

	14日	「第8回復興住宅市町村連絡調整会議」 開催 市町と連携し、整備指針案及び設計要領案に関しての内容を検討した。 ・災害公営住宅の計画・供給手法に係る検討業務のとりまとめについて ・宮城県災害公営住宅整備指針〈ガイドライン〉(案) ・宮城県災害公営住宅設計要領(案)	 ▲復興住宅市町村連絡調整会議 (第8回)
	20日	第2回買取検討会WG 要領等に対する意見交換、大崎市の事例紹介(計画概要等)、事業フローの確認を行った。	
	29日	第3回買取検討会WG 事業者選定基準と評価手法等に関して意見交換や情報の共有を図った。	
7月	10日	愛知県建築担当局長来室：激励の訪問挨拶 三県住宅復興連絡会議 それぞれ抱える課題や、震災の教訓を生かした取り組み等について議論した。	 ▲愛知県建築担当局長来訪 (応急仮設住宅視察)
	18日	宮城県災害公営住宅整備指針〈ガイドライン〉を策定 整備予定の市町と連携し、県内の災害公営住宅の基本的な考え方や地域特性に配慮した取り組みを示した。 宮城県災害公営住宅設計標準を策定 災害公営住宅の設計を行うにあたって必要な事項を定めるとともに、基本的な性能を示すことにより、業務の円滑かつ適正な執行を図ることを目指し策定した。 第4回買取検討会WG 募集関係要綱等の修正案、審査基準・要求水準等について意見交換を行った。また、全体事業フローや買取価格設定方法の検討を行った。	 ▲整備指針〈ガイドライン〉策定
	23日	第9回復興住宅市町村連絡調整会議 公募型買取制度の検討状況や整備指針〈ガイドライン〉及び設計標準の策定報告を行った。	
8月	28日	岐阜県議員団来庁：激励の訪問挨拶 愛知県技監来室：激励の訪問挨拶	
	29日	岩手県・整備局意見交換会 岩手県担当者と整備局担当者を交え、現在の状況における情報交換や今後の課題等について意見を交わした。	 ▲岐阜県議員団来庁

	30日	<u>みやぎ復興住宅整備推進会議第2回開催</u> 住宅関係機関・団体などが、住宅やまちづくりに関する情報の交換・共有を図り、県民や全国に対し、先進的で魅力あるみやぎの住宅・まちづくりの情報発信をするための会議を行った。 ・県産材の積極的活用について ・様々な復興住宅の取組みについて ・復興住宅相談会の支援について など <u>大分県総務部長来室</u>：激励の訪問挨拶
9月	11日	<u>第10回復興住宅市町村連絡調整会議</u> 公募型買取制度の検討結果の報告や市町の特色ある取組についての事例紹介を行った。 ・福祉施設等を併設した災害公営住宅の整備（多賀城市） ・簡易プロポーザル方式による災害公営住宅設計者の選定（七ヶ浜町） ・木造災害公営住宅整備についての取組み（南三陸町）



▲復興住宅整備推進会議(第2回)

15 営繕課・設備課

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	23日	白石高災害復旧工事，女川高災害復旧工事，水産高災害復旧工事，船岡支援学校災害復旧工事，大河原商業高災害復旧工事等を発注した。
5月	18日	<u>県民会館災害復旧工事 完了</u>（設備工事は6月8日完了） 工事場所 仙台市青葉区国分町三丁目3－7 工事期間 H23年10月13日～H24年6月8日 工事概要 ○県民会館災害復旧工事一式（SRC造6階建て 延べ面積 12,470㎡） 建築工事・・・内外装改修，煙突改修，耐震壁増設工事 電気工事・・・動力盤改修，舞台音響設備改修，照明器具・避雷導線撤去・再取付 機械工事・・・スプリンクラー改修，冷却塔改修，換気扇改修
		 ▲客席ホール足場架設  ▲西側外部足場設置  ▲耐力壁工事中  ▲耐力壁完成
6月	16日	東京エレクトロンホール宮城（県民会館）にて，「復興祈念コンサート」が開催された。

工事場所 仙台市宮城野区港三丁目1-7

工事期間 H23年12月22日～H24年6月29日

工事概要

○展示棟災害復旧工事一式（RC造一部SRC造2階建て 延べ面積 13,993.14 m²）

建築工事・・・外装改修（外壁クラック補修，カーテンウォール，1階建具の撤去・新設他），内装改修

電気工事・・・幹線ケーブル，分電盤，照明器具，ITVカメラ等の撤去・新設

機械工事・・・空調機・衛生器具・ポンプ類・屋内消火栓箱等の撤去・新設



▲工事着工前



▲完 成

○会議棟災害復旧工事一式（RC造一部S造2階建て 延べ面積 3,411.64 m²）

建築工事・・・内外装改修（外壁クラック補修，カーテンウォール，建具，間仕切壁の撤去・新設他）

電気工事・・・防災総合盤，電灯動力盤，弱電機器等の撤去・新設

機械工事・・・配管，ダクト，衛生器具，厨房機器，自動制御設備被災機器等の撤去・新設



▲工事着工前



▲完 成

○エネルギー棟災害復旧工事一式（RC造一部S造平屋建て 延べ面積 1,447.40 m²）

建築工事・・・内外装改修（外壁クラック補修，建具の撤去・新設他）

電気工事・・・幹線ケーブル，分電盤，照明器具等の撤去・新設，電気室受変電設備の撤去・新設

機械工事・・・冷凍機，受水槽，配管等の撤去・新設，オイルタンク撤去・新設



▲オイルタンク着工前



▲オイルタンク完成

7月

13日

宮城スタジアム屋根応急改修・災害復旧工事 完了

工事場所 宮城郡利府町菅谷字館40-1

工事期間 H23年7月13日～H24年7月13日

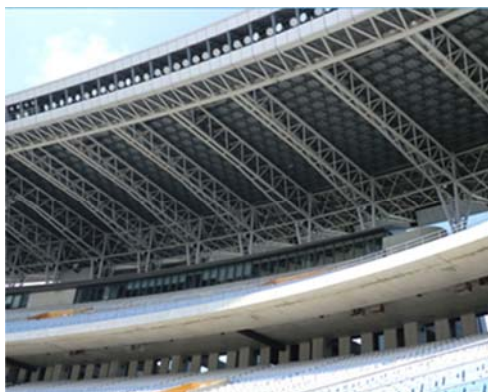
工事概要

○屋根応急改修工事一式（SRC造一部RC・S造 6階建て 延べ面積 57,564.60㎡）

メインスタンド屋根に支保工設置，屋根の鉄骨トラスT型梁の補修（26か所）



仮説柱の施工状況



屋根T型梁の補強状況

7月	13日	○宮城スタジアム災害復旧工事一式 建築工事・・・内壁及び外壁クラック・欠損部改修等 設備工事・・・電灯設備, 受変電設備, 通信・情報設備等の撤去・新設, 機械工事一式   宮城スタジアムの復旧状況
	20日	みやぎ産業交流センター（夢メッセみやぎ）の再開後の初イベントとして、「とうほく自動車フェスタ」が開催された。（7月29日まで）
8月	19日	FIFA U-20 女子ワールドカップジャパン 2012 が、宮城スタジアムで開催され、日本はメキシコに4－1で勝利を収めた。
	30日	宮城スタジアム及びみやぎ産業交流センター（夢メッセみやぎ）にて、古川工業高等学校建築科の生徒（1～3年生120名）を対象として災害復旧工事現場の見学会を実施した。
9月	18日	<u>気仙沼地域仮設1号職員寮新築工事 完了</u> 工事場所 気仙沼市東新城三丁目9 工事期間 H24年6月1日～H24年9月18日 工事概要 仮設職員寮新築工事一式 鉄骨造2階建て 52戸 延べ面積 1,235.52㎡, 外構工事一式, 電気・機械設備工事一式   ▲気仙沼職員寮（南東面） ▲石巻職員寮A棟外部（工事中）
	18日	<u>石巻地域仮設職員寮新築工事 完了</u> 工事場所 石巻市清水町二丁目37-2ほか 工事期間 H24年6月1日～H24年9月18日 工事概要 仮設職員寮新築工事一式 鉄骨造2階建て A棟28戸 B棟12戸 計40戸 延べ面積 A棟574.56㎡ B棟246.24㎡, 外構工事一式, 電気・機械設備工事一式

16 大河原土木事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	5日	<u>所内全体会議 実施</u> <u>第1回全体会議にて、災害対策警戒配備計画、大規模災害発生時における非常配備、土木部BCPなどについて説明を行う。</u>
	9日	<u>職員安否確認訓練 実施</u> <u>安否確認システム使用した訓練を実施した。</u>
	5日	<u>23 災 290 号（主）白石国見線大熊大橋（白石市小原川久保）橋梁災害復旧工事 着手</u> <u>23 災 147 号（主）亘理大河原川崎線（村田町村田金谷）道路災害復旧工事 着手</u> <u>23 災 148 号（主）亘理大河原川崎線（村田町足立西久保）道路災害復旧工事 着手</u> <u>23 災 157 号（主）亘理大河原川崎線（村田町村田小池）道路災害復旧工事 着手</u> <u>23 災 158 号（主）亘理大河原川崎線（村田町村田西原）道路災害復旧工事 着手</u> <u>23 災 220 号（主）亘理大河原川崎線（村田町足立田中前）道路災害復旧工事 着手</u>
	16日	<u>23 災 114 号（国）286 号（川崎町小野笹平山①）道路災害復旧工事 完成</u>  ▲(国)286 号（川崎町小野笹平山）復旧後
	17日	<u>23 災 231 号（一）角田大内線（角田市枝野小原）道路災害復旧工事 完成</u> <u>23 災 268 号（主）丸森柴田線（丸森町小斉津野田）道路災害復旧工事 完成</u> <u>23 災 271 号（主）角田山元線（角田市島田字島田）道路災害復旧工事 完成</u> <u>23 災 272 号（主）角田山元線（角田市島田大和橋）道路災害復旧工事 完成</u> <u>23 災 276 号（一）角田大内線（角田市島田君内）道路災害復旧工事 完成</u>   ▲(一)角田大内線（角田市枝野小原）復旧後 ▲(主)丸森柴田線（丸森町小斉津野田）復旧後

21日 東北地方太平洋沖地震災害復旧状況写真 展示

さくら祭の期間中、白石川スマイルサポーターとのコラボレーションイベントの会場（菰神堰広場）にて、災害復旧状況等の写真パネルを展示した。



▲災害復旧工事写真パネル展示状況

27日 蔵王エコーライン（県道白石上山線） 開通

東北地方太平洋沖地震により、一時全面通行止めとなったが、応急工事、本復旧工事を冬期閉鎖前に完了させ、例年どおりの開通とすることができた。今年は、エコーライン開通 50 周年となる記念すべき年であった。併せて、蔵王連峰夏山開きも行われた。



▲開通式テープカットの状況

5月 **20日** 蔵王エコーラインヒルクライムエコ 2012 開催

東北地方太平洋沖地震により、一時全面通行止めや路面にクラックが多数発生したが、きれいに修復された路面により快適な走行が可能となった。東日本大震災の影響で2年ぶりの開催となったが、全国から 1,200 人を越す出場者となり、これまでの大会記録を塗り替える記録が達成された。



▲残雪の中を走行する選手たち

23日 23 災 122 号 (国)457 号 (川崎町本砂金①) 道路災害復旧工事 完成

23 災 123 号 (国)457 号 (川崎町本砂金②) 道路災害復旧工事 完成

23 災 124 号 (国)457 号 (川崎町川内朴木①) 道路災害復旧工事 完成

23 災 125 号 (国)457 号 (川崎町川内芋ノ窪) 道路災害復旧工事 完成

23 災 301 号 (国)457 号 (川崎町本砂金③) 道路災害復旧工事 完成



▲(国)457 号 (川崎町本砂金①) 復旧後



▲(国)457 号 (川崎町本砂金②) 復旧後

31日 (国)113号 館矢間バイパス 開通

東日本大震災の影響で労務、資材の調達が困難になり、供用開始時期が遅れたものの、遅延期間を最小限にとどめ、事業着手から17年の歳月を費やし、盛大な開通式典の下に開通した。



▲来賓によるテープカット（阿武隈川右岸側）

31日 23 災 17 号 尾袋川（角田市佐倉①）河川災害復旧工事 完了

〃

23 災 18 号 尾袋川（角田市佐倉②）河川災害復旧工事 完了



▲尾袋川（角田市佐倉①）復旧後



▲尾袋川（角田市佐倉②）復旧後

31日 23 災 19 号 尾袋川（角田市小田）河川災害復旧工事 完了



▲尾袋川（角田市小田）復旧後

31日 23 災 131 号 (国)457 号（白石市福岡深谷即安）道路災害復旧工事 完成

23 災 184 号（主）南蔵王七ヶ宿線（白石市福岡二ノ萱）道路災害復旧工事 完成

23 災 185 号（主）南蔵王七ヶ宿線（白石市八宮不忘山①）道路災害復旧工事 完成

23 災 186 号（主）南蔵王七ヶ宿線（白石市八宮不忘①）道路災害復旧工事 完成

23 災 188 号（主）南蔵王七ヶ宿線（白石市八宮不忘②）道路災害復旧工事 完成

23 災 249 号（主）南蔵王七ヶ宿線（白石市八宮不忘山③）道路災害復旧工事 完成

23 災 305 号（主）南蔵王七ヶ宿線（白石市福岡深谷三住）道路災害復旧工事 完成



▲(国)457号（白石市福岡深谷即安）復旧後



▲(主)南蔵王七ヶ宿線（白石市福岡二ノ萱）復旧

31日

23 災 166 号 (主)丸森柴田線（角田市坂津田八反田）道路災害復旧工事 完成



▲(主)丸森柴田線（角田市坂津田八反田）復旧後

6月

12日

平成 24 年度 6.12 総合防災訓練 土木部防災訓練 実施

平成 23 年東北地方太平洋沖地震と同レベルの地震及び津波を想定し、発災時における初動対応を確認するための訓練をロールプレイング方式で実施した。

併せて、大河原地方支部防災訓練を実施し、安否確認報告、市町への職員派遣のための管内道路被災状況等の情報提供を行った。



▲防災訓練の実施状況

14日

平成 24 年度危険ブロック塀等の改善指導 実施

地震発生時に倒壊・破損し、通学時の児童に被害を及ぼしそうな危険ブロック塀を継続的に改善指導を実施した。(6月14日～27日) また、平成 23 年度の東北地方太平洋沖地震後には、管内のブロック塀を再点検し、危険性が増大したものについては、追加的に改善指導を実施した。



▲危険ブロック塀の例（ひび割れ）

18日

23 災 119 号 (国)349 号（角田市江尻深沼）道路災害復旧工事 完成

23 災 244 号 (国)349 号（角田市江尻巻向）道路災害復旧工事 完成



▲(国)349号（角田市江尻深沼）復旧後



▲(国)349号（角田市江尻巻向）復旧後

	19日 29日	6月19日～20日にかけての梅雨前線及び台風4号の伴う洪水により、一級河川阿武隈川水系新川（村田町）において甚大な被害が発生。 災害関連事業による河道掘削，護岸施設等の河道整備を検討するとともに，村田町管理の田辺川についても地域関連事業として整備を行うことを検討していく。  ▲新川の堤防決壊（右岸）状況 23 災 174 号（主）蔵王川崎線（蔵王町円田①）道路災害復旧工事 完成 23 災 175 号（主）蔵王川崎線（蔵王町円田②）道路災害復旧工事 完成 23 災 176 号（主）蔵王川崎線（蔵王町円田③）道路災害復旧工事 完成 23 災 177 号（主）蔵王川崎線（川崎町藤株山①）道路災害復旧工事 完成 23 災 178 号（主）蔵王川崎線（川崎町藤株山②）道路災害復旧工事 完成 23 災 214 号（主）蔵王川崎線（川崎町藤株山③）道路災害復旧工事 完成  ▲（主）蔵王川崎線（蔵王町円田①）復旧後  ▲（主）蔵王川崎線（蔵王町円田②）復旧後
7月	11日 9日	平成24年度 第1次災害査定 実施 7月11日から13日の間，県4件，管内市町2件の災害査定を受検した。 23 災 4 号 斎川（白石市太平森合）河川災害復旧工事 完了 23 災 5 号 斎川（白石市太平板谷①）河川災害復旧工事 完了 23 災 6 号 斎川（白石市太平板谷②）河川災害復旧工事 完了  ▲斎川（白石市太平森合）復旧後  ▲斎川（白石市太平板谷①）復旧後

11日	23 災 257 号 (国)113 号 (角田市横倉明地) 道路災害復旧工事 着手
	23 災 273 号 (一)越河角田線 (角田市角田字町②) 道路災害復旧工事 着手
	23 災 275 号 (一)佐倉北郷線 (角田市花島花西) 道路災害復旧工事 着手
	23 災 281 号 (国)113 号 (角田市角田中島) 道路災害復旧工事 着手
	23 災 282 号 (国)113 号 (角田市角田田町) 道路災害復旧工事 着手
	23 災 288 号 (国)113 号 (角田市角田流) 道路災害復旧工事 着手
12日	23 災 167 号 (主)丸森柴田線 (角田市小坂川押) 道路災害復旧工事 完成
	23 災 270 号 (主)丸森柴田線 (角田市鳩原割田) 道路災害復旧工事 完成
	▲(主)丸森柴田線 (角田市小坂川押) 復旧後 ▲(主)丸森柴田線 (角田市鳩原割田) 復旧後
18日	23 災 108 号 (国)113 号 (角田市高倉島揚) 道路災害復旧工事 着手
	23 災 155 号 (主)白石丸森線 (丸森町大張大蔵) 道路災害復旧工事 着手
	23 災 256 号 (国)113 号 (白石市白川犬卒都婆) 道路災害復旧工事 着手
	23 災 274 号 (一)大河原高倉線 (角田市毛萱受地) 道路災害復旧工事 着手
	23 災 283 号 (主)白石丸森線 (丸森町大張川張) 道路災害復旧工事 着手
	23 災 287 号 (一)上代寺前線 (角田市高倉寺前) 道路災害復旧工事 着手
30日	平成 24 年度 第 3 次災害査定 実施
	7 月 30 日から 8 月 3 日の間、県 9 件、管内市町 30 件の災害査定 (凍上災) を受検した。
31日	23 災 7 号 平家川 (福岡深谷) 河川災害復旧工事 完了
	▲平家川 (白石市福岡深谷) 復旧後
8月	2日
	「道の駅」防災拠点化事業に係る打合せ会 (第 1 回) 道路課 開催 東日本大震災時に「道の駅」の施設がどのように機能したかを検証し、災害時の防災拠点施設としての機能強化に向けた打合せ会を実施した。

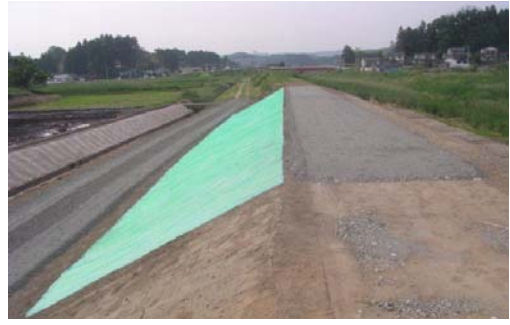
7 日

23 災 33 号一級河川新川（村田町沼辺①）河川災害復旧工事 完了（部分完成）

23 災 34 号一級河川新川（村田町沼辺②）河川災害復旧工事 完了（部分完成）



▲新川（村田町沼辺①）復旧後



▲新川（村田町沼辺②）復旧後

9 日

23 災 189 号（主）南蔵王七ヶ宿線（七ヶ宿町柏木山①）道路災害復旧 完成

23 災 190 号（主）南蔵王七ヶ宿線（七ヶ宿町柏木山②）道路災害復旧 完成



▲（主）南蔵王七ヶ宿線（七ヶ宿町柏木山①）復旧後



▲（主）南蔵王七ヶ宿線（七ヶ宿町柏木山②）復旧後

20 日

平成 24 年度インターンシップ実習生 受入

実習生 3 名を受け入れ、5 日間（20 日～24 日）にわたり、土木事務所の事務、道路、河川等の事業について、所内及び現場実習等を実施した。実習生には、震災からの復興のため、宮城県では多くの技術職員を必要としていることなども伝えた。



▲現場での実習状況

21 日

23 災 162 号（主）丸森柴田線（丸森町小斎京壇）道路災害復旧工事 完成

23 災 259 号（国）113 号（丸森町石渕）道路災害復旧工事 完成

23 災 284 号（主）丸森霊山線（丸森町上林南）道路災害復旧工事 完成

23 災 285 号（主）丸森霊山線（丸森町前河原）道路災害復旧工事 完成

23 災 286 号（主）丸森霊山線（丸森町石倉前）道路災害復旧工事 完成



▲（主）丸森柴田線（丸森町小斎京壇）復旧後



▲（国）113 号（丸森町石渕）復旧後

	27日	<u>平成 24 年度 第 5 次災害査定 実施</u> 8 月 27 日から 8 月 31 日の間、新川災害関連を含む、県 12 件、管内市町 37 件の災害査定を受検した。
9 月	7 日	<u>「道の駅」防災拠点化事業に係る打合せ会（第 2 回）道路課 開催</u> 「道の駅」の防災拠点化事業に向けた、具体的な補助メニューや採択基準等について、東北地方整備局、仙台河川国道事務所の建設専門監等を招き、打合せ会を開催した。
	14 日	<u>平成 24 年度第一回職場研修 実施</u> ① 今年度の査定（凍上災，雨災）の実施状況及びその結果，②新川災害関連復旧事業の概要 ② 橋梁耐震化・長寿命化工事の実務についてをテーマに各担当が講師を務め，その後，職員によりディスカッションを行った。
	21 日	<u>平成 24 年度第二回職場研修（現場研修） 実施</u> 昨年の東日本大震災以来，市町支援として関わってきた亘理町と山元町の現在の復旧・復興状況を把握・調査することを目的に現地視察調査を実施した。①震災廃棄物処理施設（亘理処理区），②仙台湾南部海岸山元海岸（笠野工区），③(主)相馬亘理線を視察。（27 日 2 回目の視察を実施）



▲第一回職場研修の様子



▲第二回職場研修の様子

17 仙台土木事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	2日	<u>新規採用・自治法派遣職員配属 実施</u> 事務所に新規採用職員2名が配属された。また、復興・復旧事業の即戦力として9県、22名の自治法派遣職員が配属された。
	6日	<u>三陸沿岸道路 仙塩道路4車線化事業着工式 実施</u> 三陸縦貫自動車道・仙塩道路（仙台港北IC～利府中IC間、延長7.8キロ）の4車線化工事の着工式が、多賀城市八幡地内において実施され、徳山東北地方整備局長をはじめ、関係者及び来賓の方々から挨拶、祝辞を賜り、その後に、橋梁くい打ち式が行われ、工事の安全、一日も早い完成を祈念した。
	8日	<u>J R 仙石線多賀城地区連続立体交差高架切替記念式典 実施</u> 県で整備を進めていた仙石線多賀城地区連続立体交差事業において、多賀城駅周辺（多賀城市東田中～多賀城市伝上山）の下り線の高架切替が行われ、4月8日の始発より運行をはじめ、当日、多賀城駅前広場において、村井嘉浩知事や菊地健次郎多賀城市長、里見雅行 J R 東日本仙台支社長等が出席して、記念式典が開催された。
		 ▲仙塩道路4車線化事業着工式（杭打ち式）
		 ▲下り線高架切替記念式典
		 ▲J R 仙石線下り線高架切替運行
23日		<u>（一）荒浜港今泉線地元説明会（～28日） 開催</u> 阿武隈川における堤防嵩上げ等の災害復旧事業との共同施行により復興交付金事業として整備する（一）荒浜港今泉線の道路計画に関する現地測量、調査を実施するための地元説明会を開催した。
		 （一）荒浜港今泉線 事業計画説明会

5月	1日	<u>新任期付き職員配属 実施</u> 公共土木施設復旧に伴う業務量増加に対応するために採用され、土木部に配属された25名の技術職員のうち7名が仙台土木事務所に配属された。 3日 <u>平成24年5月3日～4日にかけての大雨対応</u> 太平洋沿岸を発達しながら進んだ低気圧の影響で5月3日から4日にかけての降水量が、管内で200ミリを超える大雨となり、この大雨における最大24時間降水量は泉ヶ岳でも247.5ミリを観測する等、宮城県内の広い範囲で5月として観測史上1位の記録を更新した。 管内では、道路冠水等により6箇所が交通規制され、南貞山運河でも越水が確認され、名取川、吉田川、七北田川等で「はん濫危険、警戒、注意情報」が、管内12市町村で「土砂災害警戒情報」が発令された。県管理の道路、河川において7箇所の公共土木施設災害が発生した。  南貞山運河・仙台市宮城野区蒲生地内 ▲越水状況  (主) 仙台三本木線・大和町落合松坂地内 ▲道路被災状況 24日 <u>山元町復興まちづくりに関する住民説明会 開催</u> 山元町が開催した復興まちづくり計画の住民説明会において関連する坂元川及び戸花川災害復旧事業計画の概要について、説明を行った。
6月	7日	<u>七ヶ浜町菖蒲田海岸災害復旧事業着工式 実施</u> 着工式では、石山敬貴衆議院議員、熊谷大参議院議員、三浦宮城県副知事、渡邊七ヶ浜町長をはじめ、関係者約50人が出席し、被災者への黙祷の後に関係者及び来賓の方々から挨拶、祝辞を賜り、工事の安全と一日も早い完成を祈念し、鍬入れが行われた。 震災で被災した海岸堤防の段階的な補強を進め、地域を高潮等から守るとともに、住民へ整備される堤防の高さを示すため、現地に丁張り設置した。  ▲菖蒲田海岸災害復旧着工式(鍬入れ式)  ▲堤防計画の丁張り設置

12日 (一) 荒浜港今泉線幅杭設置立会（～14日） 実施

阿武隈川における堤防嵩上げ等の災害復旧事業との共同施行により復興交付金事業として整備する（一）荒浜港今泉線の道路計画に係る所有者間の用地境界立会と合わせて、事業用地に関する幅杭設置を行い、地権者に事業用地の範囲を提示した。

18日 仙台土木復旧・復興のあゆみ vol.1 発行

仙台土木事務所における復旧・復興状況を、県民をはじめとする全国の方々へ発信するため、「仙台土木復旧・復興のあゆみ」を発行。事務所ホームページへの掲載及び事務所での配布を開始した。



▲「仙台土木復旧・復興のあゆみ」発刊

20日 平成24年台風4号による大雨対応

台風4号と梅雨前線の影響で、管内山沿いで150ミリを超える大雨となった。仙台においては、1時間に30ミリを超える激しい雨を観測した。管内では、道路冠水等により5箇所が交通規制され、名取川、吉田川等においてもはん濫危険、警戒、注意情報が、管内6市町村で土砂災害警戒情報が発令された。県管理河川18箇所で公共土木施設災害が発生した。

21日 平成24年度「仙台地方管内復旧・復興事業連絡調整会議」開催

東日本太平洋沖地震により被災した仙台管内で県が所管する公共土木施設等の災害復旧及び復興事業等について、情報の共有、事業調整及び協議等により円滑かつ効率的な事業推進と早期復興を図ることを目的として、「平成24年度仙台管内復旧・復興事業等連絡調整会議」を開催した。



▲連絡調整会議開催状況

7月 9日 平成24年度 第1次災害査定（～13日） 受検

5月3日の大雨により被災した箇所について、仙台土木事務所7件（道路・1件、河川・6件）、市町村11件（大和町・1件、大郷町・4件、富谷町・5件、大衡村・1件）の災害査定を受検した。

10日 災害復旧事業進捗状況及び復興事業箇所の掲示

「見える復旧・復興」として、県民の方々に現在の道路、河川等の災害復旧の進捗状況や復興交付金事業箇所等を情報提供するために、完了箇所（黒）、工事中箇所（黄）、未着手箇所ごとに色分けし、事務所正面玄関に掲示した。



▲災害復旧箇所の状況掲示

10日 (都) 築港大通線, (都) 八幡築港線 復興交付金事業地元説明会 (26・27 日) 開催

都市計画道路築港大通線・八幡築港線(復興交付金事業)に係る事業説明会を関係地区の港町地区、中の島地区、舟入地区で開催した。

築港大通線は震災による地盤沈下で浸水対策のため道路嵩上げ整備し、八幡築港線は4車線化整備を行い、災害時の緊急輸送路、避難路や救出路としての防災機能が強化されるとともに、渋滞が解消し円滑な交通が確保するための事業概要及び現地測量の立入について説明を行った。



▲事業説明会開催状況(塩釜市港町地区)



▲事業説明会開催状況(塩釜市中の島地区)

17日 平成24年度 第2次災害査定(～20日) 受検

5月3日の大雨により被災した箇所について、市町村11件(大和町・4件、富谷町・3件、大衡村・4件)の災害査定を受検した。

26日 (一) 荒浜港今泉線事業説明会(～27日) 開催

復興交付金事業として市街地間を連絡し、避難道路として整備を進める(一)荒浜港今泉線に係る事業概要及び現地測量に伴う私有地への立ち入りに関する説明会を蔵地区、荒浜一丁目地区において開催した。



▲事業説明会開催状況(亘理町蔵地区)



▲事業説明会開催状況(亘理町荒浜一丁目地区)

27日 沿岸3土木事務所復旧・復興事業等連絡調整会議 開催

東北地方太平洋沖地震による地震、津波被災を受けた沿岸地区を所管する3土木事務所(仙台土木事務所・東部土木事務所・気仙沼土木事務所)で進めている地域の復旧・復興の現状や事業推進に向けて抱えている課題等について、情報共有を図り、今後の対応等について意見交換を行った。

	30日	<u>蒲生北部地区再整備説明会（～8月2日） 開催</u> 仙台市が再整備を進めている蒲生北部地区の土地 区画整理事業に関する説明会に合わせ、当該地区に隣 接する七北田川についても、震災をうけて災害復旧事 業による再整備に関する事業概要や用地測量の実施 等について説明した。	
	31日	<u>自治法派遣職員離任</u> 4月1日から配属されていた愛媛県の派遣職員が任期（4ヶ月）を終え、離任した。	▲事業説明会開催状況（仙台市宮城野区蒲生）
8月	1日	<u>自治法派遣職員配属</u> 7月31日に離任した愛媛県の派遣職員と交代で3名の派遣職員が配属された。	
	5日	<u>岩沼市玉浦西地区防災集団移転事業起工式 実施</u> 岩沼市は、全国第1号となる集団移転先地（玉浦西地区）造成工事の起工式が実施された。 また、岩沼市の防災集団移転促進事集に併せ幅員狭隘区間の拡幅工事を実施する（一）岩沼海浜 緑地線の整備と造成地の関係がわかるよう現地に丁張りを設置した。	 
		▲防災集団移転促進事業起工式典（鉄入れ式）	▲（一）岩沼海浜緑地線・道路計画の丁張り設置
	11日	<u>仙台港多賀城地区緩衝緑地災害復旧事業説明会 開催</u> 災害復旧を進めている仙台港多賀城地区緩衝緑地の 整備概要及びスケジュール等について、近隣住民等 に対して説明を行った。また、隣接する砂押川の災害復 旧の事業計画について合わせて説明を行った。	
			▲事業説明会開催状況（多賀城市大代地区）
	21日	<u>七北田川（蒲生南部地区）事業概要説明 開催</u> 高砂南部排水機場移設による新排水機場建設及び新設導水路に係る地権者を対象とした地 元説明会に合わせて、七北田川右岸の復旧計画について関係者に説明を行った。	
	22日	<u>車橋橋梁架替工事用地説明会 開催</u> 通常事業として進めてきた（主）塩釜吉岡線車橋架替工事における事業及び事業において必要と される用地面積及び単価に関して地権者への説明会を開催した。	

23日 静岡県治水砂防協会現地視察 実施

東日本大震災における宮城県の土砂災害関係事業について調査・視察に来県し、管内の実施箇所の概要等を説明し、緑ヶ丘地すべり災害復旧工事箇所の現地調査を実施した。



▲緑ヶ丘地すべり災害復旧工事現場視察

27日 岐阜県議会土木委員会視察 実施

東日本大震災被災地の視察のため来県し、災害廃棄物処理施設（名取処理区）を視察後、名取市閑上地区の被災状況、復興計画概要、中貞山運河の復旧計画概要について、名取市が設置した宅地嵩上等現地確認場において説明した。



▲現地説明状況



▲名取市閑上地区・宅地嵩上等現地確認場

平成24年度 第5次災害査定（～8月31日） 受検

6月20日の台風4号の影響により被災した箇所について、仙台土木事務所18件（河川）、市町村13件（塩竈市・5件、利府町・1件、大郷町・3件、大衡村・4件）の災害査定を受検した。



▲災害査定状況



▲災害査定状況

28日 (一) 大衡仙台線・宮床道路改良事業説明会 開催

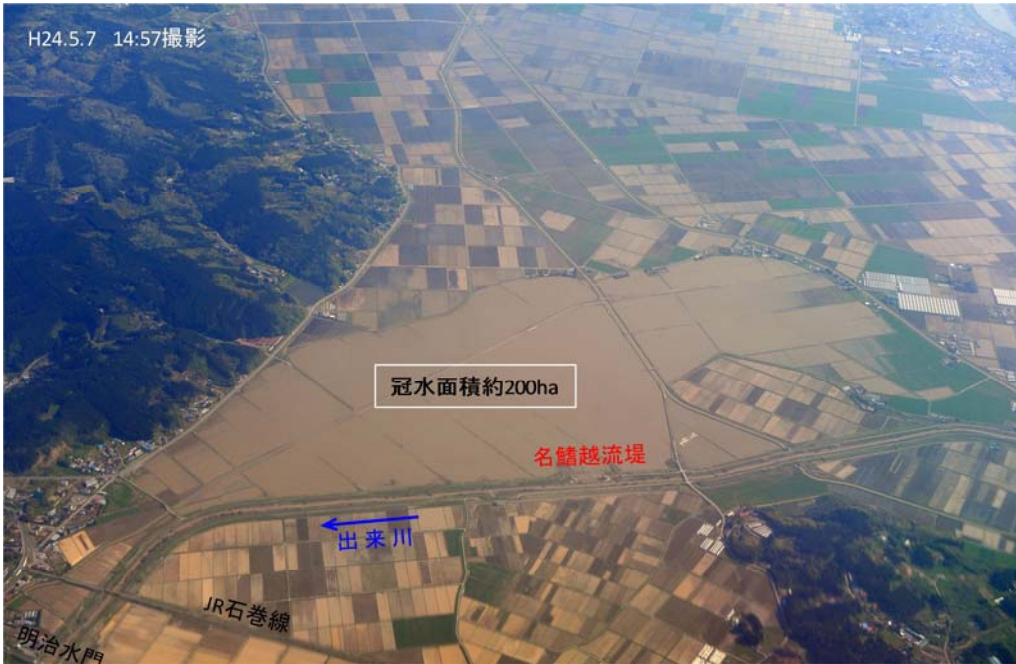
(一) 大衡仙台線小野工区に引き続き、宮床工区に事業着手するため、地権者等の関係者に対して事業説明を行い、測量の立入に関する説明会を開催した。



▲(一) 大衡仙台線・宮床工区事業説明会

9月	3日	<u>高城川災害復旧事業説明会 開催</u> 東日本大震災における高城川河川災害復旧工事計画の概要について、関係住民等に対して説明会を開催した。
		<u>4日 小白浜地区海岸災害復旧事業説明会 開催</u> 東日本大震災において被災を受けた松島町内の小白浜地区海岸の災害復旧計画概要について、関係住民に対して説明会を開催した。 ▲小白浜海岸災害復旧事業説明会
		<u>8日 (都)駅前南通線 ((一)岩沼停車場線) 都市計画決定説明会 開催</u> 岩沼市で整備を進めているＪＲ岩沼駅前広場へのアクセス道路として、駅利用車両及び歩行者等の安全な通行を確保するために計画している都市計画道路・駅前南通線 ((一) 岩沼停車場線) の都市計画決定に関する地元説明会を開催した。今後、都市計画決定の手続きを踏まえて道路整備を実施する。 ▲(都)駅前南通線・都市計画説明会

18 北部土木事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	27日	<u>(主)鹿島台高清水線平渡1工区用地説明会 開催</u> 事業用地として御協力いただく地権者に対して、取得面積、地目別の取得単価を提示するとともに、課税の特例等について説明した。 理を行った。
5月	4日	<u>4月30日から5月5日にかけての豪雨により、出来川が出水、名鱈越流堤が破堤</u> 平成24年5月4日9時頃、越流を開始してまもなく越流堤約20mが決壊し、もともとの名鱈沼の範囲を超える約200haの農地の浸水及び床下浸水3戸の被害が生じた。   ▲被災状況
	14日	<u>(主)仙台三本木線混内山道路改良事業の収用裁決に係る第一回審理</u> 収用委員会へ事業計画概要、裁決申請及び明渡裁決の申立に関し、裁決申請に至った経緯、損失補償額の算定根拠等について、起業者説明を行った。  ▲仙台三本木線混内山道路

	16日	<u>名鰯越流堤決壊箇所の応急工事 完了</u>	
	16日	<u>土木部長管内視察</u>	▲応急復旧後
	22日	(主)石巻鹿島台大衡線二郷外道路災害復旧工事 完成 復旧延長 L = 1,399.7m	
	23日	(主)古川佐沼線江合道路災害復旧工事 完成 復旧延長 L = 367m	▲石巻鹿島台大衡線二郷外道路
6月			
		▲着手前	▲完 成
	12日	<u>6.12 総合防災訓練土木部防災訓練 実施</u> 北部土木事務所と管理委託業者及び建設コンサルタント協会が参加し、被災情報伝達訓練を実施。 土木事務所職員18名が参加し、現地確認や県民土砂災害相互連絡システムを使用した訓練を実施。	
		▲訓練の様子	
	13日	<u>遊水池越流堤の維持管理のあり方に関する検討会 出席</u> 5月4日の出来川名鰯越流堤での破堤を受け、県内8遊水池について越流堤の被災を未然に防ぐため、通常時や異常天然現象発生後における点検方法や維持管理の方法等を検討し、今後の効率的な維持管理のあり方についてとりまとめる検討会が開催された。	
	22日	<u>「3.11 東日本大震災 復旧・復興パネル展」 開催</u> 平成24年8月22日から29日まで「道の駅 三本木 やまなみ」で「3.11 東日本大震災 復旧・復興パネル展」を開催	

7月	2日	<u>「3.11 東日本大震災 復旧・復興パネル展」 開催</u> 7月2日から31日まで大崎市岩出山「あ・ら・伊達」駅の駅で「3.11 東日本大震災 復旧・復興パネル展」を開催。		▲パネル展の様子
	4日	<u>国道347号整備に係る加美町区長会研修会 出席</u> 小野田文化会館小ホール（加美町）において、国道347号県境部11.3kmの通年通行化に向けた取り組み状況を説明。		▲研修会の様子
	9日	<u>平成24年第1次災害査定 実施</u> 7月9日から13日まで5月豪雨等による被災箇所18件の災害査定を実施。		
	17日	<u>平成24年第2次災害査定 実施</u> 7月9日から13日まで5月豪雨等による被災箇所3件の災害査定を実施。		
	27日	<u>(一)小野田三本木線向町地区道路改良事業の計画説明会 開催</u> 一般県道小野田三本木線色麻町内の未改良区間約200mの道路改良計画を地元の説明。		
	30日	<u>国道108号花刈山バイパス4号トンネル貫通式 出席</u> 直轄権限代行事業として施工されている4号トンネルは、平成23年度に着手し、平成25年度の完了予定。		▲貫通式の様子
	30日	<u>平成24年第3次災害査定 実施</u> 7月30日から8月3日まで凍上災による被災箇所3件の災害査定を実施。		
8月	6日	<u>平成24年第4次災害査定 実施</u> 8月6日から10日まで凍上災1件と5月豪雨の出来川名鰯越流堤の2件の災害査定を実施。名鰯越流堤は、災害関連事業として採択される。		

7日 国道108号花刈山バイパス3号トンネル工事安全祈願祭 出席

直轄権限代行事業として施工される3号トンネルは、平成25年度完了予定。



▲安全祈願祭

20日 夏期研修生3名の受け入れ 実施

8月20日から31日まで夏期研修生3名が土木事務所で研修を行った。



▲インターンシップの様子

22日 職場内研修（第1回） 実施

事務所職員の技術向上を図るため国道108号花刈山バイパスのトンネル及び橋梁の工事現場の見学と鬼首地熱発電所の視察を実施。



▲職場内研修の様子

24日 平成24年度「道路クリーンキャンペーン」 実施
(社)宮城県建設業協会大崎支部と合同で北部土木管理の国県道18路線の清掃活動を実施。



▲クリーンキャンペーンの様子

27日 平成24年第5次災害査定 実施

8月27日から31日まで凍上災による被災箇所5件の災害査定を実施。

	28日	<u>職場内研修（第2回） 実施</u> 事務所職員の技術向上を図るため港湾施設の災害復旧工事現場及び震災廃棄物処理施設の視察を実施。	
	29日	<u>名鰯越流堤災害復旧工事の綱矢板仮締切 完了</u> 	
		▲名鰯越流堤災害復旧工事完了	▲クリーンキャンペーンの様子
9月	4日	<u>建設工事現場の緊急安全パトロール 実施</u> 夏場に入り多発する建設現場の事故や古川労働基準監督署からの緊急要請を踏まえ、北部土木事務所が発注し、現在、施工中の主な工事現場約20箇所に対し、緊急安全パトロールを実施。	
	6日	<u>涌谷町洞ヶ崎一急傾斜地崩壊対策事業説明会 開催</u> 平成23年度に実施した測量・調査・設計に基づき、急傾斜地危険区域の指定及び急傾斜地崩壊対策事業について、関係者を対象に説明会を開催。	
	10日	<u>平成23年東北地方太平洋沖地震災の復旧工事全て執行完了</u> 当事務所管内の被災箇所166箇所ですべて最後となる品井沼遊水池周囲堤の復旧工事を執行。	

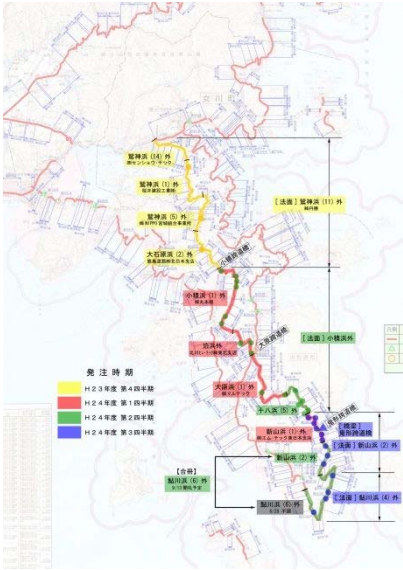
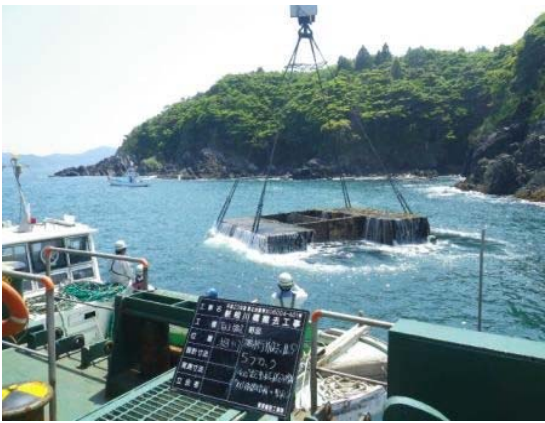
19 北部土木事務所栗原地域事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	13日	<u>小山田川河川災害復旧工事完了</u> 小山田川（高清水鶴巻）の本復旧完了  ▲着手前  ▲小山田川河川災害復旧後
5月	5日	<u>国道398号冬期閉鎖解除</u> 国道398号の花山字本沢温湯～秋田県境（14.4km）区間は、例年5月連休前を目標に冬期閉鎖を解除してきたが、この冬は例年にない大雪と低温状態が続き、除雪完了後も切土法面やその上部、沢筋に大量の雪が残り、雪崩や落雪の発生が危惧された。このため、専門家に現地調査を依頼し、斜面状況の監視と雪底除去、待ち受けポケット確保等の対策を進めてきたが、5月2～4日の大雨で急激に雪解けが進み危険性が大幅に低下したことから、危険箇所の監視及び交通規制などの安全対策を講じた上で、5月5日に供用を開始した。こうした経過を踏まえ、改めて雪崩危険箇所の調査をおこない、春先の早期供用に必要な防雪施設の整備を進めることとしている。  ▲土木研究所の専門家による現地調査  ▲切土法面とその上部の残雪状況
	22日	<u>藤沢瀬嶺道路災害復旧工事完了</u> （一）田尻瀬峰線（瀬峰藤沢瀬嶺）外1工区の本復旧完了
6月	17日	<u>災害復旧・復興状況をパネルで紹介</u> 栗原市一迫中央公園で開催された「栗原市総合防災訓練」において、岩手・宮城内陸地震及び東日本大震災により被災した公共土木施設の復旧・復興状況について、パネルを使って栗原市民や訓練参加者にお知らせした。  ▲災害復旧・復興状況をパネル展示

7月	9日	<u>河川被害箇所の災害復旧を申請（災害査定）</u> 4月30日～5月5日にかけての豪雨により管内の河川で被害が発生したことから、災害復旧申請を行い、第1次・第2次査定において、9河川12箇所の採択を受けた。
	18日	<u>凍上被害箇所の災害復旧を申請（災害査定）</u> 平成23年度冬期の極端な低温状況により、県内の道路で舗装面にひび割れ、不陸などの凍上被害（凍上災）が発生したため、平成18年以来6年ぶりに、凍上災箇所の災害復旧申請を行うこととなり、当管内では、第2次～第5次査定において、12路線24箇所の採択を受けた。 ▲凍上災害査定の状況
8月	7日	<u>大震災で被災した川南高架橋上部工を原位置に復旧</u> （一）有壁若柳線の川南高架橋（栗原市若柳）は、東北地方太平洋沖地震により橋軸直角方向に繰り返し大きな水平力が作用し、橋脚の柱基部損傷や、上部工（3径間連続中空床版）の回転・横移動に伴う支承・移動制限装置等の損傷など、甚大な被害が発生した。 これらの被災のうち、移動した上部工について、8月7日深夜、3径間全体をジャッキアップし原位置に復旧する作業を実施、約5時間で無事完了した。 ▲3径間に移動用支保工・ベントを設置 ▲A2、P3 地覆部で2～5cmのズレ ▲7日深夜、桁移動作業を開始 ▲水平用 50ton ジャッキ ▲鉛直用 200ton ジャッキ ▲道路法線の確認 ▲移動量を計測 ▲所定の位置に移動完了！

8月	3日～ 9日	<u>「水害から命を守る治水対策」パネル展を開催</u> 台風期を前に、本県の水害と治水対策の歴史や、現在の取組について周知するとともに、ハザードマップをはじめとしたソフト施策を紹介し、県民の水害への防災意識を高め、引いては自助・共助意識の醸成を図るために、河川課と連携し栗原市役所庁舎ホールにて、パネル展を開催。(迫川改修80周年記念事業のプレイベント)	 ▲栗原市役所でのパネル展の様子
	31日	<u>浦ノ沢道路災害復旧工事完了</u> (一)大鳥沢辺線(栗駒栗原浦ノ沢)外3工区の本復旧完了	
9月	21日	<u>他県応援職員が岩手・宮城内陸地震被災箇所での復旧状況を視察</u> 東部土木事務所の他県応援職員を中心に、登米地域事務所職員を合わせた23名が、平成20年6月の岩手・宮城内陸地震で大きな被害が発生した、荒砥沢ダム上流地すべり崩壊地や、耕英東(裏沢)砂防激特事業箇所、県道築館栗駒公園線の大規模法面崩壊箇所の現地を視察、宮城北部森林管理署及び当事務所で復旧・復興状況を説明した。	 ▲県道築館栗駒公園線の大規模法面崩壊箇所

20 東部土木事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	17日	<u>(一) 牡鹿半島公園線本復旧工事着手</u> 路線延長 L=33.8km のち約 9 割以上がクラック・法面崩壊等被災を受けた一般県道牡鹿半島公園線において、本復旧工事に着手しました。 第 1 段階としては、起点から小積インターまでの約 L=10.0km 区間を復旧し早期規制解除を目指します。  ▲【23 災 5554 号復旧状況】 補強土壁工  ▲【23 災 5326 号復旧状況】 吹付法砕工  ▲【災害箇所図】
中	国	<u>(国) 398 号 新相川橋撤去工事着手</u> 被災し流失した落橋部が存置する相川湾では、のり養殖などの漁業を営むうえで支障となっているため、落橋部撤去工事について地元漁協より早期に行うことを望まれている。 落橋部撤去工事は、現在関係機関と調整中であるが、新相川橋本体工の構造には影響しない部分であるため部分的に先行着手する。  ▲位置図  ▲工事の風景

5月	31日	<u>(国)398号女川橋応急復旧工事完了</u> 東日本大震災により流出した女川橋について、一時は自衛隊により盛土され通行可能となったが、大雨時に冠水し市街地復旧の支障となっていた。 5月31日に仮橋が完成したことにより、梅雨や台風による冠水被害が軽減された。  ▲【 女川橋（仮橋） 】
	19日	<u>長渡海岸災害復旧工事完了</u> 石巻市網地島長渡海岸は、東日本大震災により発生した津波によって大きく地盤が削られ、上部にある民家の一部が崩れるなど大きな被害が生じました。また、1m近く地盤沈下が生じ波浪が直接地盤にあたることとなり、海岸線の侵食が進行する恐れがあることから緊急的に災害復旧工事が行われました。現在は海岸堤防が整備され、民政の安定・国土保全が果たされています。  ▲被災状況
6月	22日	<u>主) 河北桃生線 福地道路災害復旧工事完了</u> 石巻市福地地内の路面災害復旧工事が完了  ▲路面復旧前  ▲路面復旧後

6月	25日	(一) 石巻雄勝線 藤巻地区説明会 (一) 石巻雄勝線の藤巻地区については、国が行う旧北上川の災害復旧事業に合わせて、復興道路整備を実施するべく、地元説明会を行いました。
		▲説明会の様子
	28日	白浜海岸災害復旧工事 丁張・事業説明看板設置 相川沢川災害復旧事業を住民により理解してもらうため、現地に丁張りと事業説明看板を設置しました。
		▲丁張の設置 ▲事業説明看板
7月	10日	定川説明看板および丁張りの設置 定川災害復旧事業を住民により理解してもらうため、現地の2箇所にも事業概要看板と3箇所にも丁張りを設置しました。
		▲看板及び丁張り設置 (7/10)
	12日	(一) 石巻雄勝線 雄勝道路改良事業説明会の開催 (一) 石巻雄勝線は、津波の来襲時に雄勝地区への唯一の道路となり「命の道」として取り上げられたが、雨量規制・冬季閉鎖等の問題もあるため、車線の拡幅を行い平成23年度から測量・計画・用地・工事を開始し平成27年度の完成を目指す。

13日 相川沢川河川災害復旧工事 丁張設置

相川沢川災害復旧事業を住民により理解してもらうため、現地に丁張りをを設置しました。



▲丁張の設置

17日

～

18日

定川災害復旧事業説明会

定川災害復旧事業概要説明会を7月18日（水）、19日（木）の2日間にわたり、開催しました。地域住民の参加者数は、18日52名、19日70名、合計122名にのぼり、渥美県議会議員、東部地方振興事務所農業農村整備部、東松島市などの関係者にも参加して頂きました。

説明会では、堤防の高さに関する質問や農地、用地に関する質問など、活発な意見交換が行われ、定川災害復旧事業に関する地域の関心の高さが伺えました。



▲赤井地区市民センター(7/18)



▲大曲地区センター (7/19)

24日 国) 398号 相川道路改良事業説明会の開催

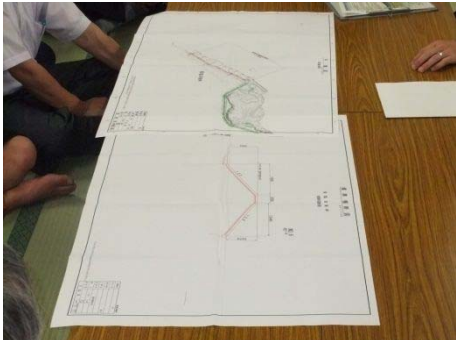
相川地区は、津波の来襲により道路を含め壊滅的被害を受け、一時通行不能となったことから、復興交付金事業として、防災集団移転計画に合わせた道路計画を立案し、平成24年度から測量・計画・用地・工事を開始し平成27年度完成を目指す。



▲位置図



▲事業説明会（相川地区）

	25日 27日	<u>(国) 398号 雄勝道路改良事業説明会の開催</u> 津波の来襲により国道398号・(主)河北桃生線が壊滅的被害を受け、雄勝は一時孤立状態となったことから、復興交付金事業として、防災集団移転計画に合わせた道路計画を立案し、平成24年度から測量・計画・用地・工事を開始し平成27年度完成を目指す。 <u>長塩谷海岸災害復旧事業 事業説明会</u> 復旧事業説明会を開催し、地域住民に理解していただけるように事業内容を説明しました。   ▲長塩谷海岸災害復旧事業説明会(8/27)
8月	10日 28日	<u>南北上運河看板及び丁張りの設置</u> 南北上運河災害復旧事業を住民により理解してもらうため、現地に事業概要看板と丁張りを設置しました。  ▲看板及び丁張り設置(8/10) <u>上納地区用地説明会(定川)</u> 関係機関との調整が完了した地区を対象に構造等の詳細な説明を実施しました。  ▲上納地区説明会(8/28) 鮎川浜道路災害復旧工事完了 平成23年度311地震災 5558-A01号 (一) 牡鹿半島公園線 石巻市鮎川浜地内 復旧延長 L=277.2m 請負金額 78,252,300円  ▲路面復旧後

中

国) 398号 新北上大橋旧橋撤去工事着手

被災により落橋した上部工について、国土交通省と調整した結果、非洪水期に合わせて上部工撤去工事として部分的に先行着手する。



▲位置図



▲新北上大橋旧橋

中

一) 県道釜谷大須雄勝線 釜谷～長面地区部分工事着手

長面地区の災害復旧事業のための工事車両が増加することから、支障となる幅員狭小区間の拡幅と舗装を実施するため部分的に先行着手する。



▲位置図



▲県道釜谷大須雄勝線



▲位置図

2 1 東部土木事務所登米地域事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	16日	<u>新田外道路災害復旧工事完了（(主)古川佐沼線 迫町新田地内外）</u>
	19日	<u>石森外道路災害復旧工事完了（(一)石森永井線 中田町石森地内）</u>
5月	21日	<u>旧迫川河川災害復旧工事完了（迫川 米山町中津山地内）</u>
	22日	<u>櫓場外道路災害復旧工事完了（(国)346号 米山町字櫓場地内外）</u>
		 
		▲(国)346号 米山町櫓場 被災状況 ▲同左復旧後
	22日	<u>錦桜橋橋梁災害応急復旧工事完了（(国)346号 中田町上沼地内）</u>
	23日	<u>錦橋橋梁災害応急復旧工事完了（(国)398号 迫町佐沼地内）</u>
	25日	<u>上沼外道路災害復旧工事完了（(国)342号 中田町上沼地内）</u>
	28日	<u>長沼川外河川災害復旧工事完了（長沼川 迫町北方地内外）</u>
6月	7日	<u>土砂災害危険箇所合同パトロール 実施</u> 登米市と連携して、市の広報誌での広報活動のほか、市内の土砂災害危険箇所のうち 21 箇所について、合同パトロールを実施した。
	12日	<u>6. 1 2 総合防災訓練 実施</u> 東日本大震災の経験を踏まえ、今後も起こり得る大規模地震・津波等に対する防災体制の確立と防災意識の高揚を図るため、みやぎ県民防災の日に合わせ、総合防災訓練を実施した。
6月	15日	<u>南深沢外道路災害復旧工事完了（(主)古川佐沼線 迫町新田地内外）</u>
	19日	<u>荒川河川災害復旧工事完了（荒川 築館字横須賀地内外）</u>
	29日	<u>みやぎ県北高速幹線道路路線測量に着手</u>



▲合同パトロール



▲総合防災訓練

7月 2日 青山外道路災害復旧工事完了 ((主)古川佐沼線 迫町北方地内)



▲(主)古川佐沼線 迫町北方 被災状況



▲同左復旧後

10日 みやぎ県北高速幹線道路橋梁設計に着手

13日 浅水外道路災害復旧工事完了 ((国)398号 中田町浅水地内外)

17日 長谷山外道路災害復旧工事完了 ((国)342号 中田町長谷山地内外)

20日 天形河川災害復旧工事完了 (長沼川 迫町北方地内)



▲長沼ダム 護岸 被災状況



▲同左復旧後

25日 北深沢河川災害復旧工事完了 (長沼川 迫町新田地内)

8月 1日 東部土木登米地域だより第1号 発行

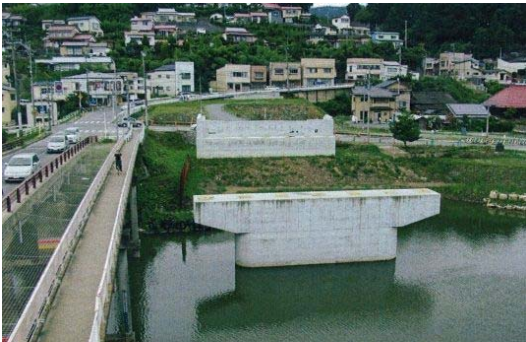
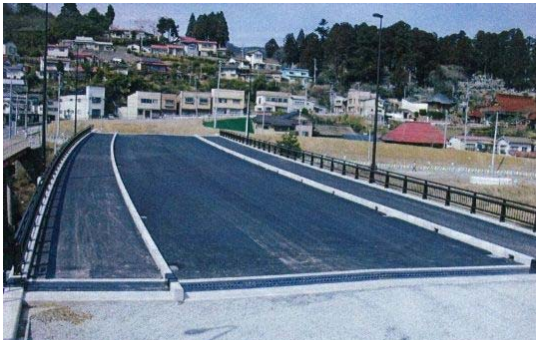
事務所の復旧・復興に向けた活動状況や地域情報について、地域住民や関係機関等に情報提供を行うため、定期的に発行することとした。



▲東部土木登米地域だより第1号

	3日 10日 17日	<u>東日本大震災パネル展 開催（～16日まで）</u> 登米地域の居住者に、東日本大震災からの復旧・復興状況をお知らせするため、イオンタウン佐沼店の専門店モール通路で、「東日本大震災パネル展」を開催した。 <u>小山田川（野谷地排水樋管）河川災害復旧工事完了（小山田川 南方町新野谷地地内）</u> <u>水害から命を守る治水対策パネル展 開催（～23日まで）</u> みやぎの水害と治水対策の歴史に加えて、ハザードマップをはじめとする「ソフト対策」を紹介したパネル展を、イオンタウン佐沼店で開催した。 このパネル展では、迫川改修80周年を記念した「迫川における治水対策の歴史」も併せて紹介した。 22日 <u>狼ノ欠外道路災害復旧工事完了（（主）築館登米線 迫町新田地内）</u> 24日 <u>畑岡下外道路災害復旧工事完了（（主）古川佐沼線 南方町畑岡下地内外）</u>	 ▲東日本大震災パネル展  ▲水害から命を守る治水対策パネル展
9月	4日 5日 16日	<u>第11回長沼川を考える会 開催</u> 10名の委員に委嘱状を交付し、地元沿川区長も交えて、長沼川の河川改修事業の概要や水質浄化対策について意見交換を行った。 <u>南沢川砂防コラボ事業による施設改良工事完了</u> 平成22年度から2年間、地元住民との地域協働事業として実施してきた砂防流路工への玉石張り根継工や魚道設置等の工事が完了した。 <u>迫川フェスティバル 開催</u> 長沼レガッタ会場において、迫川改修80周年記念事業の一環として開催。	 ▲長沼川を考える会  ▲砂防流路改良工事

2 2 気仙沼土木事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	2日	<u>新規採用・自治法派遣職員 配属</u> 事務所に新規採用職員が4名、加えて復旧・復興の即戦力として7都道県から自治法派遣職員が19名配属され新年度がスタートした。また、経理班、三陸道用地対策班、災害復旧用地担当及びまちづくり担当を新設、道路建設班を道路建設第1班と道路建設第2班に改組、河川班を河川砂防第1班と河川砂防第2班に改組、砂防班を河川砂防第3班に改称し組織を改編強化した。
	3日 ～ 8日	<u>被災市街地復興推進地域内の復旧事業計画に係る説明会 開催</u> 気仙沼市主催の説明会の中で、土木事務所が管理する鹿折川、大川・気仙沼港（商港）、面瀬川について、復旧概要、今後のスケジュール等について説明するとともに測量調査の協力をお願いした。主な質問としては、堤防高さの決定方法、今後のスケジュール等について質問がなされた。
		 ▲鹿折地区 説明会状況
	13日	<u>本町橋架換工事 橋梁上部工完了</u> 平成14年度から事業を推進していた気仙沼唐桑線の本町橋は、老朽化が著しく一次緊急輸送道路に指定されていることから早期完成が望まれているが、橋梁上部工が完成した。
		 ▲施工前  ▲施工後
	17日	<u>大島架橋事業 用地買収着手</u> 二ノ浜・三ノ浜地区の地権者を対象に用地説明会を開催し、買収面積及び単価を提示した。5月22日に大島架橋事業で第一号となる用地売買契約を締結し用地買収に着手した。
		 ▲用地説明会開催状況

	27 日	<u>馬場只越線 被災 2 箇所の本復旧工事 完了</u> 一般県道馬場只越線で東日本大震災により被災を受けた 2 箇所の本復旧工事が完了した。  ▲復旧工事前  ▲本復旧工事完了後
5 月	1 日	<u>任期付き職員 配属</u> 公共土木施設復旧に伴う業務量増加に対応するために採用された技術職員が 5 名配属された。
	3 日	<u>5 月 3 日から 5 月 4 日にかけての豪雨</u> 太平洋沿岸を発達しながら進んだ低気圧の影響で、5 月 3 日から 4 日にかけて雨量 220mm の豪雨が襲い、管内の道路・河川が被災した。
	18 日	<u>平野復興大臣 現地視察</u> 平野復興大臣と郡復興大臣政務官が南三陸町の復興状況を視察された。視察後、佐藤南三陸町長から復興まちづくりへの要望が出され、「人的支援」「防集・区画整理事業」「形の見える復興」について意見交換が行われた。  ▲鹿折川 被災状況
	24 日	<u>弘川ダム本体建設工事 最終打設式举行</u> 間組・若生工業特定建設工事共同企業体主催の弘川ダム本体建設工事最終打設式が举行された。 当日は高橋土木部次長をはじめ、佐藤南三陸町長、県議会議員、南三陸町議会議員、地元関係者、工事関係者など約 50 名の出席のもと執り行われ、今後 10 月には設備工事も含めたダム本体が完成し、試験湛水を行う予定である。  ▲来賓方の集合写真  ▲下流からのダム全景 <u>気仙沼大島ランフェスタ開催に向け仮舗装工事 実施</u>

27 日

県道大島線は東日本大震災で津波による流出被害を受けたが、地元島民の有志が立ち上がり、島民の力で復興マラソン「気仙沼大島ランフェスタ」を開催することが決定され、気仙沼土木事務所としてもその開催を支援するため、マラソンコースに指定された県道大島線の仮舗装工事を実施し大会前日までに完了させた。



▲災害復旧応急工事完了後



▲仮舗装工事完了後

28 日

御崎港復旧工事説明会 開催

御崎港災害復旧工事の開始に伴い工事への理解と協力を求めるため、港湾を利用する関係者に対して説明会を開催した。

会場：気仙沼市崎浜集会所（参加者数 25 名）



▲工事説明会状況



▲工事説明会状況

28 日

5 月 3 日の豪雨による災害 応急復旧完了（鹿折川）

豪雨で被災した鹿折川の応急工事が完了。



▲被災状況（5 月 4 日）



▲応急復旧完了（5 月 28 日）

6月

1日

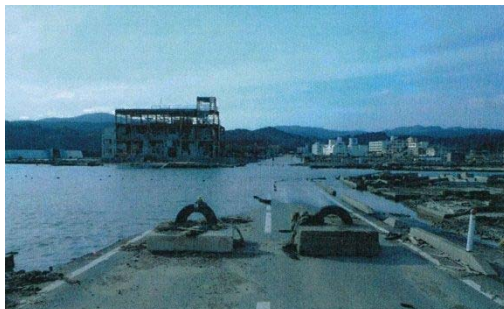
任期付き職員 配属

公共土木施設復旧に伴う業務量増加に対応するために採用された技術職員が1名配属された。

12日

清水浜志津川港線の応急工事 完了

東日本大震災の津波により道路が流出し、全面通行止めとなっていた(一)清水浜志津川港線の南三陸町志津川字本浜町地内において、仮復旧工事が完了し供用開始した。



▲道路復旧前



▲道路復旧後

18日

泊崎半島線の応急工事 完了

東日本大震災の津波により道路が流出し、全面通行止めとなっていた(一)泊崎半島線の南三陸町歌津字館浜地内において、仮復旧工事が完了し供用開始した。



▲道路復旧前

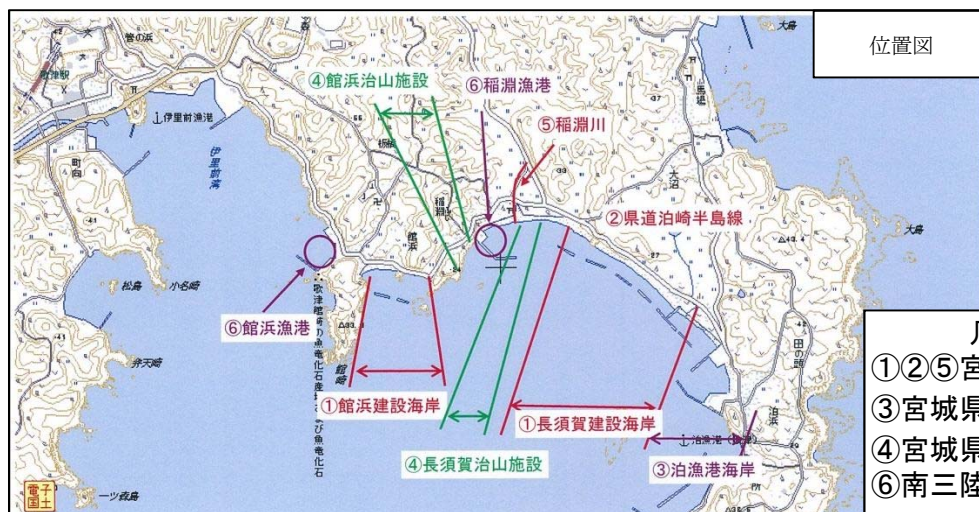


▲道路復旧後

21日

南三陸町泊崎半島エリア災害復旧事業説明会 開催

泊崎半島エリアは、4者（県土木事務所、県水産漁港部、県農林振興部、町建設課）が各々管理する漁港、海岸、河川の公共土木施設に関する災害復旧説明会を開催した。地域住民の参加者数は48名にのぼり、県道に関する質問等があった。



26 日 気仙沼市本吉町大谷東・中郷地区災害復旧事業説明会 開催

気仙沼市大谷東・中郷地区において、3者（宮城北部森林管理署、気仙沼市建設部、気仙沼土木事務所）が各々管理する林野海岸、市道（橋）、河川・建設海岸の公共土木施設に関する災害復旧説明会を開催した。地域住民が約50名参加し、河川工事の工期や排水管等に関する質問があり、災害復旧事業に対する関心の高さが伺えた。



▲説明会の様子

28 日 気仙沼市・南三陸町震災復旧事業連絡調整合同会議 開催

災害復旧工事の発注が平成27年度までの短期間に集中し、建設資材の供給不足が懸念されることから、行政機関、建設業者団体及び資材供給者が集まり情報交換を行った。



▲会議の状況

29 日 気仙沼唐桑線 被災5箇所の本復旧工事 完了

主要地方道気仙沼唐桑線で東日本大震災により被災を受けた5箇所の本復旧工事が完了した。



▲復旧工事前



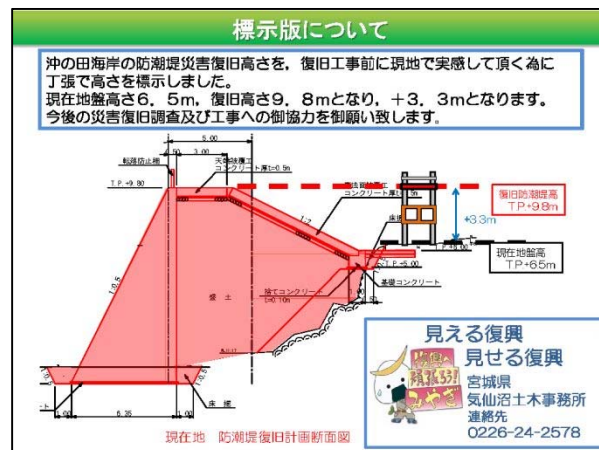
▲本復旧工事完了後

7月 3日 沖の田海岸 防潮堤復旧高 標示

6月26日の説明会の時に地元から「復旧高さを標示して欲しい」と要望があり、災害復旧事業に理解を深めてもらうために現地に防潮堤の復旧高さを標示した。



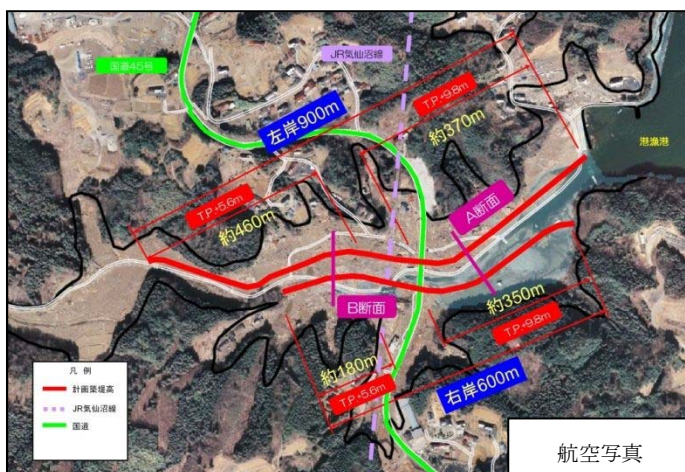
▲復旧高さ標示様子



▲復旧断面図

4日 南三陸町港地区災害復旧事業説明会 開催

港地区において、南三陸町役場、気仙沼土木事務所が各々管理する町漁港、町道と港川の公共土木施設に関する災害復旧事業説明会を開催した。地域住民が約80名出席し、河川のルート、橋梁や用地に関する質問等があり、地域の方々の災害復旧に対する関心の高さが伺えた。



▲説明会の様子

9日 災害査定 受検

5月3日の豪雨により被災した箇所について、気仙沼土木事務所からは18件（道路3件、河川15件）の災害査定を受検した。

11 日 海岸防潮堤等の整備に関する市民説明会及び意見交換会 開催

～ 気仙沼市沿岸部を 12 地区に分割し、災害復旧事業等の計画について市民説明会を実施した。市
29 日 沿岸部は海岸管理者が混在していることから、説明会では管理者毎に説明を行い意見交換がなされ
た。主な意見としては、防潮堤の高さの決定方法、今後のスケジュール、用地買収等に関する質問
がなされた。また、景観・環境への配慮や避難ビル・避難道の整備などを求める声もあげられた。



▲朝日地区 説明会状況



▲大島地区 説明会状況



▲条南地区 説明会状況



▲小泉地区 説明会状況

17 日 一般町道西戸線 西戸橋仮橋設置工事 完成

東日本大震災の津波により流出した折立川に架かる町道橋を仮復旧し、車両の通行が可能となった。西戸橋は南三陸町で管理する橋であるが、「東北地方太平洋沖地震による災害復旧事業に係る業務施行に関する協定」に基づき、県が工事を施行した。



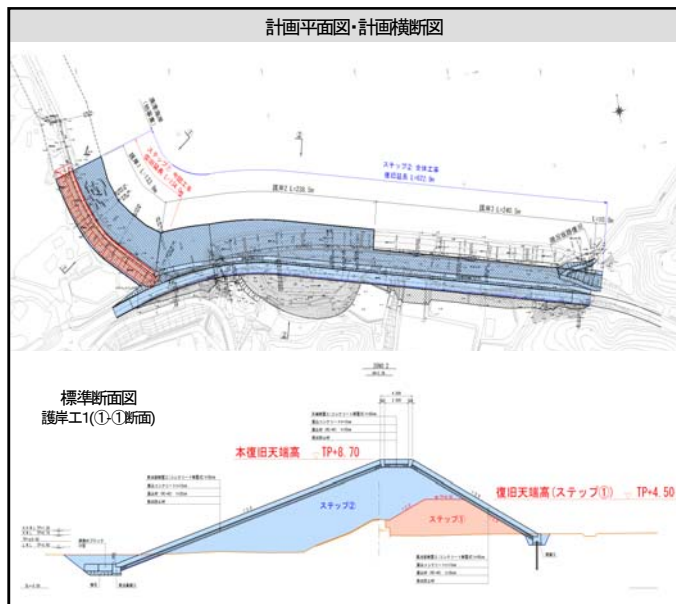
▲西戸橋復旧前



▲西戸橋復旧後

23 日 南三陸町戸倉地区災害復旧事業説明会 開催

戸倉地区において、気仙沼土木事務所、南三陸町が各々管理する建設海岸・国道、漁港海岸の公共土木施設に関する災害復旧説明会を開催した。地域住民が約30名出席し、国道の位置や堤防の必要性等について質問があり、災害復旧事業に対する関心の高さが伺えた。



▲説明会の様子

31 日 気仙沼本吉線 被災1箇所、馬籠志津川線 被災3箇所の本復旧工事 完了

主要地方道気仙沼本吉線で被災を受けた1箇所、一般県道馬籠志津川線で被災を受けた3箇所の本復旧工事が完了した。



▲本復旧工事完了後



▲本復旧工事完了後

8 月 2 日 復興交付金事業 気仙沼唐桑線 東舞根道路改良事業計画説明会 開催

主要地方道気仙沼唐桑線の東舞根地区において、復興交付金事業の説明会を開催した。東舞根道路改良事業は舞根地区の孤立集落防止、防災集団移転地区と唐桑中心部を繋ぐ意味でも重要性の高い事業であり、住民の関心も高く70名以上の方が参加された。



▲説明会の状況

2 日 大島架橋事業用地境界立会の完了

平成23年12月から順次立会を進めてきた大島磯草地区から国道45号までの大島架橋事業計画区間約6.4kmの事業予定地及びその隣接地に係る用地境界確認の立会が完了した。



▲境界立会実施状況

6 日 気仙沼港海岸 災害復旧高さ標示板・復旧計画看板 設置

気仙沼港の防潮堤（胸壁）の復旧計画を理解してもらうため、現地に復旧高さ標示板と復旧計画看板を2箇所を設置した。



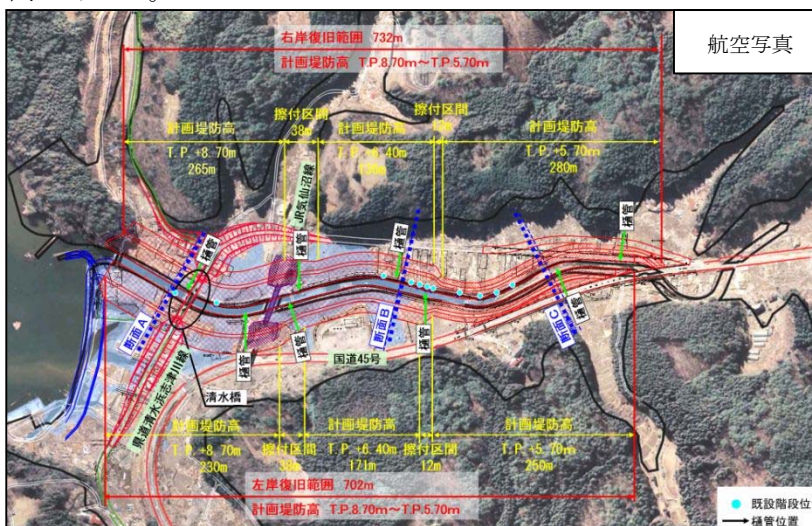
▲復旧高さ標示板設置



▲復旧計画看板設置

20 日 桜川及び県道清水浜志津川港線の災害復旧事業計画説明会 開催

南三陸町清水地区災害危険区域指定に係わる説明会に出席し、桜川及び県道清水浜志津川港線の災害復旧事業計画について、災害復旧内容や工事による用地影響範囲、断面形状、今後のスケジュール等を参加した住民約70名に説明した。参加者から、用地買収の時期や内水の排水方法等の質問があった。



20 日 J R 気仙沼線 B R T 運行開始

J R 気仙沼線の柳津駅～気仙沼駅間(5 5. 3 km)については、東日本大震災以降不通となっていたが、J R 東日本が仮復旧としてB R T (バス高速輸送システム) により暫定運行を開始した。なお、運行ルートは殆どが国道4 5 号だが、陸前階上駅～最知駅(約2. 1 km)間については旧軌道上の専用道を走行する。



▲BRT

28 日 大島線 被災1 8 箇所の本復旧工事 完了

一般県道大島線で東日本大震災により被災を受けた1 8 箇所の本復旧工事が完了した。



▲復旧工事前



▲本復旧工事完了後

31 日 戸倉海岸災害復旧着工式 挙行

宮城県と南三陸町は、本吉郡南三陸町戸倉字長須賀地内において「戸倉海岸災害復旧工事着工式」を開催した。式典では郡和子復興大臣政務官，小野寺五典衆議院議員をはじめ，関係者約5 0 名に参列をいただき，被災者を悼む黙祷の後，主催者代表から挨拶を行い，来賓の方々から祝辞を賜り，工事の安全と早期完成を祈念し鍬入れが執り行なわれた。



▲関係者による鍬入れ



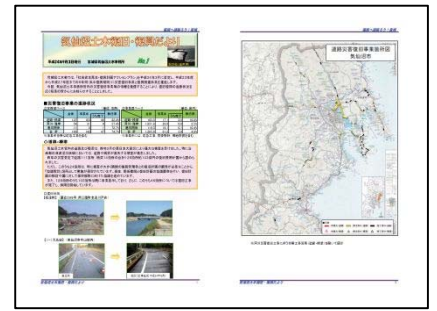
▲工事開始号令

9 月

3 日

気仙沼土木復旧・復興だより（NO.1）発行

気仙沼土木事務所管内の復旧復興の進捗状況を広く県民の皆さんにお知らせするため、「気仙沼土木復旧・復興だより」を発行し、事務所ホームページで情報提供を開始した。



▲気仙沼土木復旧・復興だより（No.1）

12 日

平野復興大臣 現地視察

平野復興大臣と郡復興大臣政務官が気仙沼市・南三陸町の復興事業の進捗状況を視察された。気仙沼市では大沢地区の防災集団移転促進事業，鹿折地区土地区画整理事業，三島（大谷）海岸事業，そして南三陸町では伊里前地区の防災集団移転促進事業，戸倉の災害廃棄物処理場を視察された。視察後，菅原気仙沼市長，佐藤南三陸町長と復興事業の課題について意見交換が行われた。



▲大沢地区の防集予定地の視察

2 3 仙台塩釜港湾事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	27日	<u>ガントリークレーン3号機復旧</u> 3号機が復旧したことにより、高砂ふ頭にあるガントリークレーン4機が全て使用可能となり、一層の荷役の効率化が図られるようになった。
		 ▲ガントリークレーン3号機復旧後
5月	17日	<u>中国／韓国コンテナ定期航路再開</u> 中国／韓国航路は既に釜山、寧波、上海等を経由する航路は再開されていたが、新たに、中国／韓国航路（釜山・蔚山・光陽・大連・青島・釜山等経由）が再開し、国際コンテナ定期航路は4航路が再開した。（震災前5航路）
		 ▲荷役風景
6月	2日	<u>塩釜港区岸壁復旧工事着手</u> 塩釜港区貞山2号岸壁の復旧工事に着手。（塩釜港区では最初の岸壁復旧工事着手となる。）
		 ▲貞山2号岸壁エプロン取り壊し  ▲貞山2号岸壁鋼管矢板打設

6月	16日	<u>仙台港区新北防波堤復旧工事着手</u> 仙台港区では県が施工する唯一の防波堤復旧工事。(他の防波堤は国が施工) 60～70cm 沈下した防波堤を元の高さに戻す。復旧に必要な消波ブロックは5月16日から製作を始めている。  ▲新北防波堤被覆石撤去  ▲新北防波堤上部コンクリート打設
	22日	<u>仙台港区臨港道路復旧着手</u> 仙台港区の臨港道路は車両が通行不能になる程の大きな被害はほとんどなかったが、路面に多数のひび割れ等があり、アスファルト舗装の復旧工事を行う。  ▲ふ頭5号線路面切削
7月	9日	<u>仙台港区高砂ふ頭船舶給水施設復旧</u> 地震及び津波により給水施設が損壊し、船舶への給水が出来ない状況であったが、これにより給水が可能となった。今後、中野ふ頭等他の給水施設についても順次復旧を進めていく。  ▲給水タンク復旧  ▲給水管の洗浄状況

7月	12日	<u>塩釜港区貞山1号上屋復旧着手</u> 津波により被災した上屋の改築工事に着手。 まず、既存上屋の解体工事を施工し、その後、耐震性を高めた、より使いやすい上屋に改築する。	
9月	末	<u>仙台港区防波堤復旧工事（国施工）現地作業完了（予定）</u> 国が施工している防波堤（4施設）の復旧工事の現地作業が9月一杯で終了する予定。 これにより、高波浪時の船舶航行、荷役作業の安全性が向上する。	

▲既存上屋の解体

2 4 石巻港湾事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	1日	<u>自治法派遣職員辞令伝達式 実施</u> 石巻港湾事務所には秋田県から5名、富山県から昨年度末より1名多い3名の計8名が配属された。
5月	11日	<u>臨港道路 雲雀野中央線災害復旧（その2）工事完了</u> 雲雀野中央線約1.1kmの復旧を行った。
	18日	<u>臨港道路 釜北線災害復旧（その3）工事完了</u> 釜北線約3kmのうち約1.1kmの復旧を行った。
	31日	<u>臨港道路 釜北線災害復旧（その2）工事完了</u> 釜北線約3kmのうち800mの復旧を行った。
6月	4日	<u>石巻港 災害復旧工事 着工式</u> 石巻市、東松島市と共催で、約150名の来賓および関係者出席のもと、石巻港の災害復旧工事着工式を執り行った。



▲雲雀野中央線復旧後



▲釜北線（その2）工事復旧後



▲釜北線（その3）工事復旧後



▲石巻港災害復旧工事着工式（鍬入れ）



▲石巻港災害復旧工事着工式（着工の様子）

6月	29日	<u>表浜港 防波堤災害復旧工事完了</u> 防波堤を約 1m 嵩上げし、被災前の高さに復旧した。 ▲表浜防波堤復旧後 ▲表浜防波堤復旧後
7月	25日	<u>海上自衛隊護衛艦「たかなみ」一般公開</u> 東日本大震災時にいち早く洋上に展開し救助活動を行った海上自衛隊護衛艦「たかなみ」の表敬寄港が行われ 2 日間の一般公開で約 1,700 人の来場があった。 ▲護衛艦「たかなみ」
8月	6日	<u>石巻工業港西水路災害復旧（その1）工事完了</u> 津波による堆積物を撤去し、水路の水深を確保した。 ▲石巻工業港 ▲西水路災害復旧（その1）工事
8月	7日	<u>石巻港 日和岸壁ニューマチックアンローダー基礎災害復旧工事完了</u> 港湾荷役機械が再び利用できるよう復旧を行った。 ▲ニューマチックアンローダー基礎復旧後

8月	8日	<u>石巻港 復旧見学会</u> 国土交通省東北地方整備局塩釜港湾・空港整備事務所と共催で、一般応募の小中学生 25 名，保護者 18 名，および港湾利用者等 10 名，行政関係者 7 名の計 60 名に対し，現場説明会を実施した。 ▲石巻港復旧見学会（南防波堤）
9月	24日	<u>大型客船「にっぽん丸」寄港</u> 復興にむけ応援の意味も含め寄港。寄港に際しては歓迎式典や観光地・被災地を回るオプションツアーも企画され、一般には船内見学会を開催。
	26日	<u>大型客船「ぱしふいっくびーなす」寄港</u> 復興にむけ応援の意味も含め寄港。寄港に際しては歓迎式典や観光地・被災地を回るオプションツアーも企画され、一般には船内見学会を開催。 ▲「にっぽん丸」 ▲「ぱしふいっくびーなす」

25 中南部下水道事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	18日	<u>県南浄化センター 水処理第2系列供用開始</u> 平成23年7月から仮設送風機設備により実施してきた「簡易曝気処理」から、送風機設備の復旧により、水処理施設段階的復旧の最終段階である生物処理に移行した。 ▲「最初沈殿池」被災状況 ▲「最初沈殿池」復旧状況 ▲仮設ブローによる簡易曝気災状況 ▲No. 4-2 送風機復旧・運転再開
25日		<u>仙塩浄化センター 下水処理開始式</u> 平成23年6月から仮設送風機設備を稼働させて実施していた「簡易曝気処理」から、送風機設備等の一部復旧に伴い、生物処理を開始した。（生物処理能力は全体能力比50％） ▲「反応タンク」被災直後 汚泥堆積状況 ▲復旧完了 生物処理再開



▲「終沈」被災直後 ガレキ・土砂流入状況



▲復旧完了 生物処理再開



▲「送風機設備」被災直後 ガレキ・土砂流入状況



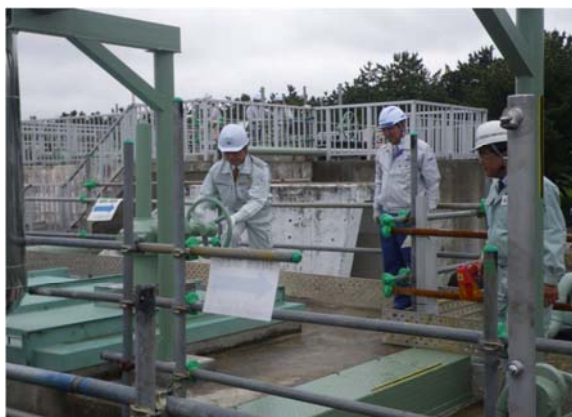
▲復旧完了

5月

23日

県南浄化センター 水処理第3系列供用開始・マスコミ公開

水処理第3系列の供用開始に合わせ、浄化センターの復旧状況をマスコミ公開した。
(テレビ局5社、新聞社3社)



▲菅原下水道課長による 第3系列通水開始



▲最初沈殿池 通水開始状況



▲水処理施設公開状況



▲送風機施設公開状況

6月

6日

仙塩浄化センター バイパス水路復旧完了

大雨時等に施設の処理能力以上の汚水の流入が発生した場合に、処理しきれない汚水がマンホールから溢水する可能性があるため、処理能力超過分をバイパス水路により沈殿池へ送水し、沈殿消毒した後に放流している。梅雨の出水期を前に復旧が完了した。



▲バイパス管接続状況



▲バイパス水路使用状況 「平成24年7月7日 大雨時」

18日

県南浄化センター 汚水ポンプ設備・重力濃縮設備復旧完了

流入した汚水を水処理施設へ揚水する汚水ポンプが全5台復旧し、震災前と同等のポンプ能力になった。



▲ポンプ設備被災後 ガレキ・土砂堆積状況



▲ポンプ設備全5台復旧完了

津波により被災した重力濃縮槽は、応急復旧していた1槽と合わせて3槽が復旧し、震災前と同等の能力になった。



▲重力濃縮槽被災後



▲重力濃縮槽全3槽復旧完了

県南浄化センター 送風機設備復旧完了

生物処理を行うために必要な空気を送る送風機は、全5台が復旧し、震災前と同等の送風能力になった。



▲送風機設備被災後 ガレキ・土砂堆積状況



▲送風機設備復旧完了

7月	9日	<u>仙塩浄化センター 汚水ポンプ復旧完了</u> 流入した汚水を水処理施設へ揚水する汚水ポンプが全4台復旧し、震災前と同等のポンプ能力になった。 ▲5号汚水ポンプ被災後 ガレキ・土砂堆積状況 ▲5号ポンプ復旧完了
31日		<u>県南浄化センター 水処理第4系列供用開始(水処理施設復旧完了)</u> 水処理施設第4系列の供用開始により、全系列復旧完了となった。 ▲第4系列最終沈殿池復旧・処理状況
8月	2日	<u>県南浄化センター 機械濃縮設備供用開始</u> 汚泥減量化を図る機械濃縮設備が全3台復旧し、重力濃縮槽と合わせて濃縮設備が震災前と同等に復旧した。 ▲機械濃縮設備被災後 ガレキ・土砂堆積状況 ▲機械濃縮設備復旧完了

8月

6日

県南浄化センター 沈砂池設備供用開始

流入した汚水から砂分等を除去する沈砂掻揚機が全2台復旧し、震災前と同等の能力となった。



▲沈砂池設備沈砂掻揚機復旧状況

7日

仙塩浄化センター 自家用発電機浸水対策完了

自家用発電機は津波により水没して機能停止となったため、自家用発電機を津波から防護するための対策としてのコンクリート製防護壁が完成した。



▲自家用発電機

津波による浸水状況



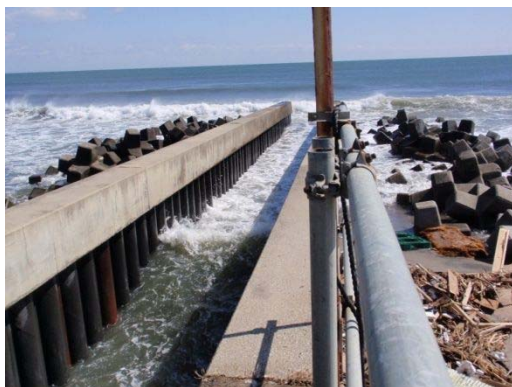
▲浸水対策完了

コンクリート製防護壁 H=1.5m

28日

県南浄化センター 放流渠復旧完了

浄化した水を太平洋に放流するための放流渠は、津波により消波ブロックの流出などの被災があったが、震災前と同等に復旧した。



▲放流渠被災状況



▲放流渠復旧状況

26 東部下水道事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	19日	石巻東部浄化センター 簡易生物処理 開始 水処理方法を「沈殿＋消毒」から「簡易生物処理＋消毒」へ移行し処理水質が向上した。 ▲水処理施設の簡易生物処理 ▲水処理施設の簡易生物処理（全景）
6月	13日	石巻浄化センター場内災害復旧工事 完成 被災した処理場内の舗装や側溝等と放流渠の水路の復旧工事が完成した。 ▲石巻浄化センター復旧後 ▲放流渠水路復旧後
	18日	若柳第1ポンプ場内管渠応急復旧工事 完成 被災したポンプ場内の管渠や舗装等の復旧工事が完了した。 ▲若柳第1ポンプ場復旧後

6月	12日	石巻東部浄化センター 脱水機棟新電気室へ受変電設備機器搬入 汚泥処理施設へ電源を供給するための機器が搬入され、設置が完了した。   ▲機器搬入状況 ▲機器設置完了 27日 石巻東部浄化センター 脱水機棟新電気室建築工事 完成   ▲新電気室施工前 ▲新電気室施工後
7月	2日 12日	石巻東部浄化センター 初沈汚泥引き抜き3回／週に変更 最初沈殿池での除去率向上を目的に引き抜き頻度を多くした。 石巻東部浄化センター 脱水機棟新監視室へ監視装置設備機器搬入 汚泥処理施設を監視操作するための機器が搬入され、設置が完了した。   ▲監視装置施工前 ▲監視装置施工後

7月	27日	<u>石巻東部浄化センター 脱水機棟新電気室受電</u> 新電気室の受電が完了した。	 ▲受電指示状態
	31日	<u>石越浄化センター場内災害復旧工事 完成</u> 被災した処理場内の舗装や管理棟周辺の土間コンクリートの復旧工事が完了した。	 ▲石越浄化センター復旧後  ▲石越浄化センター復旧後
8月	20日	<u>石巻東部浄化センター 純酸素発生装置復旧完了</u> 純酸素発生装置の試運転調整を完了した。	 ▲純酸素発生装置試運転調整完了 <u>石巻東部浄化センター 1系水処理施設最終沈殿池へ汚水流入開始</u> 1系水処理施設最終沈殿池へ汚水を流入させ、水処理の立ち上げを開始した。  ▲流入時状況  ▲水張り完了状況

8月

23日

石巻東部浄化センター 沈砂池流入汚水水質測定装置復旧完了

浄化センターへ流入する汚水の水質測定を開始した。



▲流入水質測定装置設置状況

石巻東部浄化センター 放流水質測定装置復旧完了

浄化センターから放流する水質測定を開始した。



▲放流水質測定装置設置状況

27日

石巻東部浄化センター 脱水機試運転開始

脱水機へ汚泥を供給し、汚泥処理施設の試運転を開始した。



▲汚泥処理試運転状況

9月

3日

石巻東部浄化センター 脱水ケーキの搬出開始

汚泥処理施設で発生した汚泥脱水ケーキの搬出を開始した。



▲搬出状況

18日

石巻東部浄化センター 下水処理開始式を開催

3系列の水処理施設のうち、1系列の水処理を再開した。



▲開始式状況



▲現場説明状況

石巻東部浄化センター 水処理状況

1系列水処理再開後は放流水質が向上しました。



▲処理状況

27 仙台地方ダム総合事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	18日 及び 26日	<u>仙台・宮城【伊達な旅】関連美化活動</u> DC 春キャンペーン（平成 24 年 4 月 1 日～6 月 30 日）のプレキャンペーンとして、関係機関と共に清掃美化活動を 2 ダムで実施した。 ・南川ダム（18 日） ・大倉ダム（26 日）
5月	3日 ～ 4日	<u>洪水警戒体制</u> 発達した低気圧が本州の太平洋側沿岸を進んだ影響により大雨となり、総雨量が大倉ダムの十里平で 213mm、南川ダムで 268mm に達した。春先の各ダムが満水に近い状態であったことから、南川ダムでは水位がサーチャージ水位まで残りあと 5cm に迫った。   ▲南川ダム湖面状況 ▲非常用洪水吐に残りあと 5cm と迫る
6月	19日 ～ 20日 29日	<u>洪水警戒体制</u> 台風 4 号による大雨のため、管理する 6 ダム全てにおいて洪水調節を行った。総雨量は七北田ダム及び宮床ダムで 159mm を観測。また、大倉ダムでは最大流入量 221m³/s を記録した。 <u>ネーミングライツ看板除幕式</u> 宮城県と仙台環境開発（株）は、大倉ダム展望スペースに設置したネーミングライツ看板「仙台環境開発大倉ダム」の除幕式を執り行った。   ▲ネーミングライツ看板前で記念撮影 ▲スラストブロックにも愛称名を表示

7月

19日

大倉ダム「森と湖に親しむ旬間」イベントを開催

毎年大倉ダムでは、大倉小学校の児童たちといっしょに「森と湖に親しむ旬間」に合わせ、ダム湖周辺の自然に親むためのイベントを開いており、今年は、NPO 法人水・環境ネット東北の協力を得て、水の大切さについての講話及びサイコロを使い、自分が水になったつもりで、自然界を循環する体験をする環境ゲーム「水のたび」を行い学習しました。



▲イベントの様子

29日

大倉ダムにおいて国際協力機構（JAICA）の研修を実施

バングラデシュ（3名）、ネパール（2名）、マラウイ（1名）、モーリシャス（1名）、スワジランド（1名）、タンザニア（1名）、合計6ヵ国より9名の方々が来所した。この研修は研修参加国の技術の向上に寄与することを目的に行われ、札幌市での研修の後、仙台市での研修の一貫として仙台市内の水源となっている大倉ダムにて、ダム管理等の研修が行われた。



▲研修の様子

31日

白沢河川水位観測所外河川災害復旧工事完了

震災により被災した白沢河川水位観測所及び樽水ダム寺野警報所の復旧工事が完了。

・工事費：40,637,100 円

【白沢河川水位観測所】

▲白沢河川水位観測所 復旧前
崖の崩落により観測所の機能停止



▲白沢河川水位観測所 復旧完了
新たに約70m上流右岸に設置

【樽水ダム寺野警報所】



▲寺野警報所 復旧前
仮設の櫓にサイレン、スピーカ等を設置



▲寺野警報所 復旧完了
サイレン塔は2柱式

8月	25日	<u>塩竈市水道事業100周年記念 記念植樹及びダム見学会を開催</u> 大倉ダムサイト上流左岸に位置する大倉ダム湖畔公園において、塩竈市水道事業100周年記念植樹が行われた。大倉ダムは、塩竈市の水道水源（市街地及び桂島・寒風沢・野々島・朴島に供給）となっていることから記念植樹はダムの流域にて挙行された。  ▲見学会の様子
	末日	<u>ダムの見学者数について</u> 昨年度 1,261 名（27 団体）まで落ち込んだ見学者数については、本年度は 8 月末現在で 2,200 名（37 団体）と震災前の水準まで復活した。なお、見学者のほとんどを小学生（4 学年）が占めている。

28 大崎地方ダム総合事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	7日	<u>化女沼ダムに「鎮魂の桜」を植樹</u> 東日本大震災で犠牲になられた方々の鎮魂と被災地の復興を祈念し、スマイルサポーターの「化女沼 2000 本桜の会」が、桜の苗木を植樹した。地元の小学生に加え、大崎市長や県会議員の方々にも出席頂き、約 50 人の参加者にて実施された。
	11日	<u>漆沢ダム洪水対応演習の実施</u> 融雪や大雨による洪水に備え、ダム放流時の危害防止の措置（関係機関への通知・放流警報等での周知）やダムの洪水調節操作を的確に行う事を目的に、演習を実施した。
	29日	<u>化女沼ダム清掃活動の実施</u> スマイルサポーター 3 団体、大崎市及び当事務所の協働による清掃活動を実施し、ダム周辺の環境整備に努めている。



▲集合写真



▲演習の様子



▲清掃活動

スマイルサポーター		
化女沼 2000 本桜の会	長者を想う会	宮城県建設業協会大崎支部
平成 24 年 4 月 29 日	平成 24 年 4 月 29 日	平成 24 年 7 月 28 日
平成 24 年 5 月 16 日	平成 24 年 5 月 27 日	平成 24 年 10 月 13 日
平成 24 年 6 月 20 日	平成 24 年 6 月 24 日	スマイルサポーター以外
平成 24 年 7 月 22 日	平成 24 年 7 月 29 日	大和ハウス工業(株)
平成 24 年 8 月 15 日	平成 24 年 8 月 26 日	平成 24 年 5 月 1 日
平成 24 年 9 月 19 日	平成 24 年 9 月 30 日	大崎市立宮沢小学校
平成 24 年 10 月 17 日	平成 24 年 10 月 28 日	平成 24 年 6 月 15 日
平成 24 年 11 月 21 日	平成 24 年 11 月 25 日	平成 24 年 9 月 14 日

5月	15日	<u>洪水対応演習の実施</u> 管理する5ダム（漆沢ダム・化女沼ダム・上大沢ダム・岩堂沢ダム・二ツ石ダム）において、関係機関への洪水警戒体制や放流開始に関する通知，連絡及び一般住民への放流警報等について，情報伝達の演習を行った。	 ▲演習の様子
	30日	<u>漆沢ダム見学会の実施</u> 美里町立青生小学校4年生の児童16名，引率の先生2名を迎え，ダム見学会を行いました。 見学会では，ダムの目的や仕組みなどについて説明し，ダム操作室の機器やダム堤体，監査廊（右岸グラウトトンネル）の見学会を行った。（年間約15回実施予定） また，事務所作成の「みやぎ湖沼めぐりカード」を，記念に持ち帰り頂いた。	 ▲見学会の様子
6月	12日	<u>6.12 総合防災訓練の実施</u> 平成23年度東北地方太平洋沖地震と同レベルの地震及び津波を想定し，休日に発生した場合の発災時における初動対応を，シナリオブラインド型ロールプレイング方式により確認した。	 ▲訓練の様子
7月	11日	<u>炭焼きの実施</u> 漆沢ダムの炭窯を用いて，流木を用い炭焼きを行いました。廃棄物の有効利用・処分費の軽減・地元との協働（地域に伝わる炭焼きの技術の継承及び文化の伝承の補助）を図った。（年間4回実施予定） 炭は，漆沢ダムで行われる，水と森と風のくにまつりの参加者に，無料配布した。	 ▲炭焼きの様子

	22日	<u>第19回水と森と風のくにまっりの開催</u> 漆沢ダムにおいて、漆沢地区青年部・婦人部，加美町，林野庁宮城北部森林管理署，国土交通省鳴瀬川総合開発調査事務所及び当所の主催，大崎水管理協議会協賛により，地域の豊かな自然を多くの人に味わってもらうことを目的に，漆沢ダム及び溪流センターにて開催しました。あいにくの天気でしたが，約 350 名の参加を得て，ダムの機能や有用性等について理解を深めて頂いた。	 ▲むすび丸も参加
8月	6日	<u>環境美化活動（除草作業）実施</u> 職員によるダム堤体の除草作業を行いました。作業前には，刈り払い機の使用上の注意点や熱中症予防等について確認し，安全に作業を実施した。（各ダムにて適宜実施）	 ▲美化活動の状況
	29日	<u>漆沢ダム利水者情報連絡会議（第一回）開催</u> 渇水傾向が見られることから，貯水状況について各利水者と情報共有を図るとともに，今後の取水管理について調整を行った。	 ▲会議の状況
9月	13日	<u>ダム見学を実施</u> 宮城県農業改良 OB 大崎会の皆さん 14 名が参加するなかダム見学を実施した。岩堂沢ダムの運用状況や，日常の管理について熱心に話を聞いていただき，また，施設内の一部（堤頂道路やリムトンネルなど）を歩きながら，ダムを体感して頂いたもの。	 ▲見学会の様子

29 栗原地方ダム総合事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	13日	<u>ダム情報伝達連絡会の開催</u> 異常気象時及び災害時に情報を正確かつ迅速に伝達し、住民の安全、安心を確保するため情報連絡会を開催し、各ダムから発信される情報内容について確認した。
		 ▲連絡会の様子
5月	3日～ 4日	<u>大雨による洪水調節</u> 低気圧の影響により、3日から4日にかけて大雨となり各ダムで洪水警戒体制を執った。特に花山ダムでは、貯水位が上昇し昭和33年の完成以来、初めてのただし書き操作による洪水調節の実施承認を得たが、幸いにその後流入量が減少し、ただし書き操作までは至らなかった。
		 ▲ただし書き操作打ち合わせ
5月	15日	<u>洪水対応演習</u> 梅雨、台風等による出水期を迎えるにあたり、洪水予報等の情報を迅速かつ適確に伝達するとともに操作規則等の理解を深め防災体制に万全を期するため実践的な演習を実施した。
		 ▲演習の様子
6月	25～ 26日	<u>職場内研修</u> 洪水期を迎えるにあたり、的確な洪水調節を行うため、ダム下流河川の復旧工事状況等について現地調査を実施した。

8月		<u>渇水への対応</u> 7月中旬から高気圧に覆われて晴れの日が多く降水量の少ない状態が続いた。特に8月の降水量は少なく過去10ヶ年平均降水量に対し、花山ダム(温湯)32%(54mm)、荒砥沢ダム41%(76mm)、小田ダム12%(17mm)であった。利水委員会及び渇水情報連絡会へ出席し、利水者との情報の交換と節水の調整を図った。 8月末日の貯水率は、花山ダム41%、荒砥沢ダム13%、小田ダム14%である。 ▲花山ダム湖貯水状況
9月	30日	<u>台風17号による洪水調節</u> 9月30日～10月1日にかけて東北地方を北上した台風17号の影響により、花山ダムで144mm、荒砥沢ダムで169mmの降雨を観測した。最大流入量は花山ダム664m³/S、荒砥沢ダム110m³/Sを観測し洪水調節を行った。花山ダムには、上流河川の急激な水位上昇により大量の流木がダム湖へ漂着したため、流木災害として除去する。 ▲花山ダム流木状況

30 仙台港背後地土地区画整理事務所

月	日	半年の歩み（復旧・復興へ取り組み、主要事業等）
4月	3日	<u>保留地分譲情報の更新</u> 最新の保留地分譲情報をホームページに掲載
5月	30日	<u>H24年度事業概要をホームページに掲載</u>
6月	27日	<u>沼向・竹ノ内地区地権者説明会を開催</u> 災害復旧への取り組み等について説明した。
	28日	<u>中野新町地区地権者説明会を開催</u> 災害復旧への取り組み等について説明した。
	29日	<u>甲区地区地権者説明会を開催</u> 災害復旧への取り組み等について説明した。
	29日	<u>住宅地区の道路災害復旧工事が概成</u>
7月	27日	<u>保留地分譲情報の更新</u> 最新の保留地分譲情報をホームページに掲載した。
8月	9日	<u>保留地分譲情報の更新</u> 最新の保留地分譲情報をホームページに掲載した。
	20日	<u>「仙台港背後地復興だより」(第1号)を発行</u>
9月	14日	<u>地区内の4級基準点測量完了</u>
	19日	<u>保留地分譲情報の更新</u> 最新の保留地分譲情報をホームページに掲載



▲住宅地区の道路復旧後



▲仙台港背後地復興だより

